



研究紀要第12号

未来を拓く力を育成する
「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

〈3か年継続研究：1年次〉

平成19年3月

留萌管内教育研究所



発刊にあたって

現在、児童生徒に「生きる力」をはぐくむことを目指した教育改革が進められています。その過程において、生きる力の基礎となる生命を尊重する心や思いやり、社会性、倫理観、正義感などの豊かな人間性の育成を目的とする「心の教育」の充実が、重要な教育課題として強調されています。

「心の教育」が重視される背景として、社会環境の急激な変化に伴い、いじめ、非行の凶悪化などの憂慮すべき問題行動が増加している社会的状況が指摘されており、そのために、道徳性、人格、社会性の発達や社会的対処の仕方など、健全な人間を育てるための教育的アプローチが求められています。

道徳教育に関するアンケートを、管内全小中学校にお願いして実施しました。その集計結果から、大切だと感じる心については、善悪の判断、生命尊重、感謝、自律の回答が多く、実際の指導にかかわっては、資料の収集・活用、授業の進め方、評価の方法や活用などが、課題として挙げられています。これらのことから、豊かな心の育成、とりわけ道徳教育に関する研究の取組が重要であると考えます。

また、北海道教育研究所連盟では、「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむ新しい学校教育の創造を研究主題に掲げ、「心の部会」においては、「豊かな人間性」を育成する教育活動の在り方に関する研究を推進しています。

これらの、課題や状況等を踏まえ、留萌管内教育研究所では、本年度より新たに、「未来を拓く力を育成する『心の教育』の実践的研究」を研究主題に、3か年継続研究1年次目の研究に取り組みました。その成果をまとめ、ここに研究紀要第12号を発刊する運びとなりました。

研究計画の立案にあたっては、「心の教育」をどのように押さえるか、研究主題を解明するための視点（領域）をどう設定するかが大きな課題となり、時間を費やしたところです。研究の視点は、視点1「道徳の時間の指導」、視点2「特別活動の指導」、視点3「総合的な学習の時間の指導」の3点とし、それぞれに関連をもたせながら、研究の仮説、研究内容を位置付けました。視点に沿った実践を通して、「主体的によりよく生きようとする子供」「他者と支え合い生きようとする子供」「自らの思いを実践できる子供」の育成を目指すものです。

研究業務の推進については、研究員、研究協力校共同研究担当者、研究協力員による共同研究体制で行っています。本年度の検証授業は、研究部長をはじめ3名の研究部担当者が行いました。研究の方向性を示すとの考えに立ち、前向きに実践に取り組んだことを高く評価したいと思います。

本研究はスタートしたばかりです。児童生徒の心の教育、授業改善などに少しでも役立つよう願っております。研究推進に御指導・御支援をいただきました留萌教育局、留萌管内市町村教育委員会など、関係各位に感謝申し上げます、発刊の言葉といたします。

平成19年3月

留萌管内教育研究所

所長 小川原 紀美雄

目 次

発刊にあたって

留萌管内教育研究所長 小川原 紀美雄

I	研究の概要	1
1	研究主題	
2	研究主題設定の理由	
3	研究主題の押さえ	
4	目指す子供像	
5	研究の仮説と視点	
6	研究の計画	
7	研究の構造	
II	本年度の研究	9
1	道徳の時間の指導に関して	
2	特別活動の指導に関して	
3	総合的な学習の時間の指導に関して	
III	研究員の実践	15
1	心に響く資料の開発・工夫をねらいとした「心の教育」の実践 増毛町立増毛第二中学校 山 形 勉 教諭	
2	めあてを意識して、自分たちで作る話合い活動を通じた「心の教育」の実践 留萌市立潮静小学校 室 本 博 教諭	
3	地域環境を生かした職場体験学習による「心の教育」の実践 留萌市立沖見小学校 西 條 直 志 教諭	
IV	研究の成果と課題	41
※	参考文献リスト	
	～道徳教育に関するアンケート調査の結果と考察～	44

あとがき

I 研究の概要



1 研究主題

2 研究主題設定の理由

3 研究主題の押さえ

4 目指す子供像

5 研究の仮説と視点

6 研究の計画

7 研究の構造

1 研究主題

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

2 研究主題設定の理由

今日的な学校教育の課題から

現代に生きる子供たちは、社会の激しい変化によって将来への展望をもちにくくなっている。その背景には、人間性や社会性をはぐくむ上で重要となる自然体験・社会体験の機会や場の減少、倫理観や社会性の不足、規範意識の低下、自立の遅れ等がある。それらは、学校における暴力行為やいじめ、不登校といった憂慮すべき問題に、大きな影響を与えていると考えられる。また最近では、いじめに端を発するとされる中学生の自殺や、それにかかわる諸問題についても、早急かつ具体的な手だてが求められている。このような学校教育が抱える問題を抑止し、また改善へと導くため、豊かな心をはぐくむための教育が求められている。

これまでの研究及び管内の実態から

本研究所では、これまで4次に及ぶ共同研究を行ってきたが、これらはいずれも学習指導に重点を置いて研究を進め、様々な成果を取ってきた。また、研究を推進するにあたり、各教育機関の協力の下、管内教育の実態に照らし合わせ、教育現場で生きる実践を行うべく、研究主題を設定してきた。

今回新たな研究に取り組むにあたり、これまで推進してきた「学びの教育」と両輪を成すといえる「心の教育」の充実を図りたいと考えた。同時に、心の教育の基礎となる道徳教育に関するアンケートを管内において実施したところ、研究の推進を求める意見が多く聞かれた（※巻末付録『道徳教育に関するアンケート調査』の結果と考察参照）。管内教育の一層の充実のため、本研究主題の下、研究を推進したい。

道研連研究主題とのかわりから

北海道教育研究所連盟（道研連）では、今、学校や教師は何をすべきか、その具体的な方策について模索すべく、研究主題を『確かな学力』と『豊かな心』をはぐくむ新しい学校教育の創造」と設定して、3か年継続研究（3年次）を進めている。次のページのように3つの部会を組織し、主題の解明に向け研究を重ねている。「心の部会」では、「豊かな心」をはぐくむために、自らを知り自らを高めようとする中で将来に向けて自己の在り方や生き方を確立し、また他とのかわりについて考え集団や社会に貢献しようとする中で共に支え合い生きていく力を身に付けさせることが大切であるという基本的な考えを打ち出している。本研究を推進することにより、道研連研究主題解明の一翼を担うことができると考える。

【道研連第12次共同研究の全体像】

「確かな学力」と「豊かな心」をはぐくむ
新しい学校教育の創造

「確かな学力」の向上を図る
学習指導の在り方に関する研究

学びの部会

「豊かな人間性」を育成する
教育活動の在り方に関する研究

心の部会

学校づくりの部会

特色ある教育活動の展開と教員
の資質・能力の向上に関する研究

3 研究主題の押さえ

「未来を拓く
力」とは

現代の子供たちには、「未来を拓く力」が求められている。「未来を拓く力」とは、現代社会の激しい変化に対応し、常に前向きな姿勢で、未来に夢や希望をもち、自らの人生や未来を切り拓いていく力である。

「心の教育」
とは

人が未来に希望をもって生きるためには、それぞれの理想像や目標を明確にし、それを実現するための実践力を身に付けることが必要である。その実践力を養うために、重要な要素となるのが「豊かな心」である。「豊かな心」とは、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さ、生命や人権を尊重する態度などの様々な感性であり、これらの力を育てるのが道徳教育である。

「自分を見つ
める」とは

自らの力で未来を切り拓くには、自己の在り方や生き方を確立しなければならない。その第一歩として必要となるのは、自己を的確に理解し、自己を肯定することである。自分のもつ個性とはどのようなものか、自分の抱える問題は何なのか、自分はどのような存在でありたいのか、そのような自己理解を深め、自己肯定感を高めることで、積極的に自分の生き方や在り方を探究していこうとする姿勢を身に付けることができる。

「他と豊かに
かかわる」とは

現代の社会や学校が抱える問題、すなわちNEETの増加や少年犯罪の頻発、いじめや不登校等の問題の背景には、他者と豊かにかかわり共に生きていく心や方法が身に付けられない状況がある。良好な人間関係を築くことができなかつたり、互いの人権を尊重できなかつたりする中では、共に支え合い高め合うことは困難である。

互いの思いや意見を適切に伝え合う力を身に付けるためには、集団活動を行う中で、一人一人が自分を主張し、他を認め、生き生きと生活できる風土を形成することが求められる。その中で、個々の子供が心の充実や存在意義を実感できる活動や互いの考えや意見を豊かに表現し合う活動など、集団活動の工夫について研究を進めることが求められる。

また、広い意味での他とのかかわりとして、家庭や地域社会、自然とのかかわりが考えられる。その過程においては、自然体験やボランティア活動等の体験活動が重要となってくる。体験を伴った活動は、自然や美しいものに感動する心や感性、生命を大切にする心や異質なものを尊重し受け入れる寛容な精神を、直接的にはぐくむことができるためである。また、それらの活動を通じ主体的に物事に取り組む姿勢を身に付けることも重要である。自ら課題を見付け、学び考え、問題を解決する力を養うことが、未来を切り拓くことにつながる。そのような観点から、地域環境を生かした広い活動の場において、連携を図りながら活動を進めることが必要となる。

「心の教育」
にかかわる各
領域の連携に
ついて

「心の教育」は、道德の時間のみならず、特別活動や総合的な学習の時間、各教科の学習においても、意図的に実践し、連携を図ることが大切である。それぞれが有機的に絡み合い、補充・深化・統合し合うことによって、その教育的効果は大きくなる。自己を理解した上で他とのかかわり、再び自己を見つめ直すことで深い内省が生まれたり、広い視野で様々なものとのかかわる中で、道德性が発揮され更なる深化を遂げたり、あるいは多様な体験活動の中で見付けた自己の目標を達成するため、内なる対話を繰り返したりと、各領域の効果的な連携を図ることは重要な意味をもつ。



5 研究の仮説と視点

道徳の時間の指導に関して

仮説

道徳の時間において、自己理解を促し自己肯定感を高めるような学習活動を実践することで、道徳的価値の自覚を深めさせ、積極的に自己の在り方や生き方を確立しようとする主体性をはぐくむことができる。

研究内容

- ①心に響く資料の開発・工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

特別活動の指導に関して

仮説

特別活動において、個性を大切にしながら、集団の一員としての責任を自覚できるような学習活動を行うことで、共に支え合って生活しようとする実践的態度をはぐくむことができる。

研究内容

- ①学校行事や学級活動における集団活動の工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

総合的な学習の時間の指導に関して

仮説

総合的な学習の時間において、子供の実態に応じ、地域や学校環境の特色を生かしながら学習活動を行うことで、自己を実現し、未来を切り拓く実践力をはぐくむことができる。

研究内容

- ①地域環境を生かした体験活動の工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

6 研究の計画

(1) 研究期間

平成18年度から平成20年度までの3か年継続研究

(2) 研究領域

【道徳】 【特別活動】 【総合的な学習の時間】

(3) 研究の方法

- ① 研究員会議や研究協力校・研究協力員との合同研究会議、道研連との共同研究などを通して、研究内容の検討や交流を行う。
- ② 研究協力校及び研究協力員による授業実践を通して、研究内容についての検証を進める。
- ③ 研究のまとめとして、各年度末には研究紀要を発刊する。

視点1
道徳の時間の指導に関して

視点2
特別活動の指導に関して

視点3
総合的な学習の時間の指導
に関して

平成18年度（1年次）

①心に響く資料の開発
・工夫

深く心に響き、自己
を振り返る中で、道徳
的価値をはぐくむ資料
の開発・工夫

- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

①学校行事や学級活動に
おける集団活動の工夫

個性を大切にしながら
集団の一員として生活で
きる実践的態度をはぐく
む集団活動の工夫

- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

①地域環境を生かした体
験活動の工夫

地域や学校環境の特色を
生かし、他と触れ合う中
で未来を拓く力をはぐく
む体験活動の工夫

- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

平成19年度（2年次）

①心に響く資料の開発
・工夫

②指導体制・方法の工夫

- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

①学校行事や学級活動に
おける集団活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

①地域環境を生かした体
験活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

平成20年度（3年次）

①心に響く資料の開発
・工夫

②指導体制・方法の工夫

- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

①学校行事や学級活動に
おける集団活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

①地域環境を生かした体
験活動の工夫

②指導体制・方法の工夫

- ③他領域との関連付けを
図った指導の工夫

未来を拓く力

(5) 今年度の計画

	共 同 研 究	道 研 連 共 同 研 究
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな研究の進め方の検討 ・年間計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・道研連定期総会 【4月21日(金)】
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回合同研究会議の内容検討 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回合同研究会議 (今年度の研究の推進, 検証授業計画) 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・検証授業の内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育研究所連盟夏季研究所員研修会 【7月27日(木)～28日(金)】
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・検証授業の内容の検討 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究員検証授業 (検証授業の成果と課題の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第61回北海道教育研究所連盟研究発表大会(函館大会) 【9月21日(木)～22日(金)】
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究員検証授業 (検証授業の成果と課題の検討) 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究員検証授業 (検証授業の成果と課題の検討) 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回合同研究会議 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要編集作業 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回合同研究会議 (今年度の研究の成果と課題について, 研究紀要原稿の校正) 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要第12号発刊 	

7 研究の構造

研究主題

社会環境の
変化や生徒
の実態

未来を拓く力を育成する 『心の教育』の実践的研究

地域や家庭
・管内教育
機関の要請

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

目指す子供像

- ◇自らを知り、主体的によりよく生きようとする子供
- ◇自らの個性を生かしながら、他者と支え合い生きようとする子供
- ◇理想の実現に向けて、自らの思いを実践できる子供

道徳の時間

仮説1

道徳の時間において、自己理解を促し自己肯定感を高めるような学習活動を実践することで、道徳的価値の自覚を深めさせ、積極的に自己の在り方や生き方を確立しようとする主体性をはぐくむことができる。

研究内容

- ①心に響く資料の開発・工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

特別活動

仮説2

特別活動において、個性を大切にしながら、集団の一員としての責任を自覚できるような学習活動を行うことで共に支え合って生活しようとする実践的態度をはぐくむことができる。

研究内容

- ①学校行事や学級活動における集団活動の工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

未来を 拓く力

総合的な学習 の時間

仮説3

総合的な学習の時間の指導において、子供の実態に応じ、地域や学校環境の特色を生かしながら学習活動を行うことで自己を実現し、未来を切り拓く実践力をはぐくむことができる。

研究内容

- ①心に響く資料の開発・工夫
- ②指導体制・方法の工夫
- ③他領域との関連付けを図った指導の工夫

Ⅱ 本年度の研究



視点1 道徳の時間の指導に関して

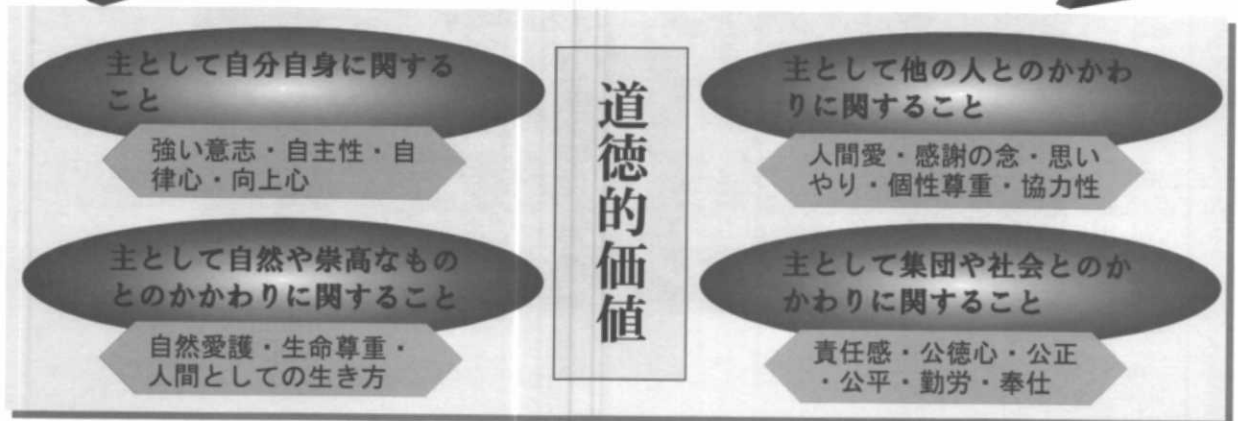
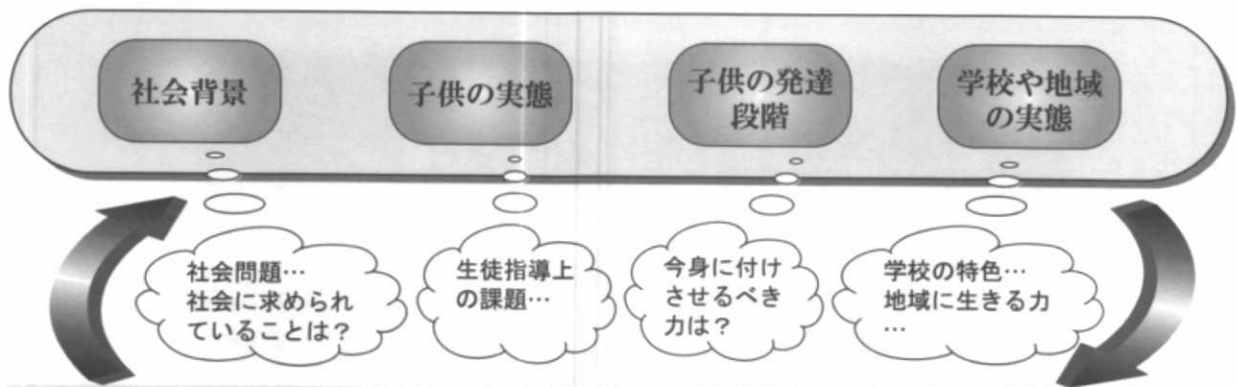
視点2 特別活動の指導に関して

視点3 総合的な学習の時間の指導に関して

視点1 道徳の時間の指導に関して

道徳的価値を
はぐくむ資料の開
発・工夫

道徳の時間において最も重要なことは、子供の実態や発達段階に応じて、身に付けさせるべき価値内容を明確にすることである。そして、そのねらいを達成できる資料を開発・工夫することこそが、意義ある授業の成立を可能にする。優れた資料は子供の心に響き、それに接するだけで子供に変容が見られることさえある。日常から様々な情報を収集し、価値ある資料を生み出すことも大切であるが、既存の資料を見直し工夫することで、大きな効果がもたらされる場合も考えられる。



道徳授業の分類・体系化

年間指導計画

- ・道徳的心情の育成
～価値の主體的自覚～
- ・道徳的判断力の育成
～フレンケル理論～
- ・実践意欲と態度などの道徳性の育成
～コールバーグ理論～

資料の開発・工夫

【資料の内容】

- ・子供が感動する資料
- ・日常の体験を用いた資料
- ・子供が体験できない生き方を扱った資料など

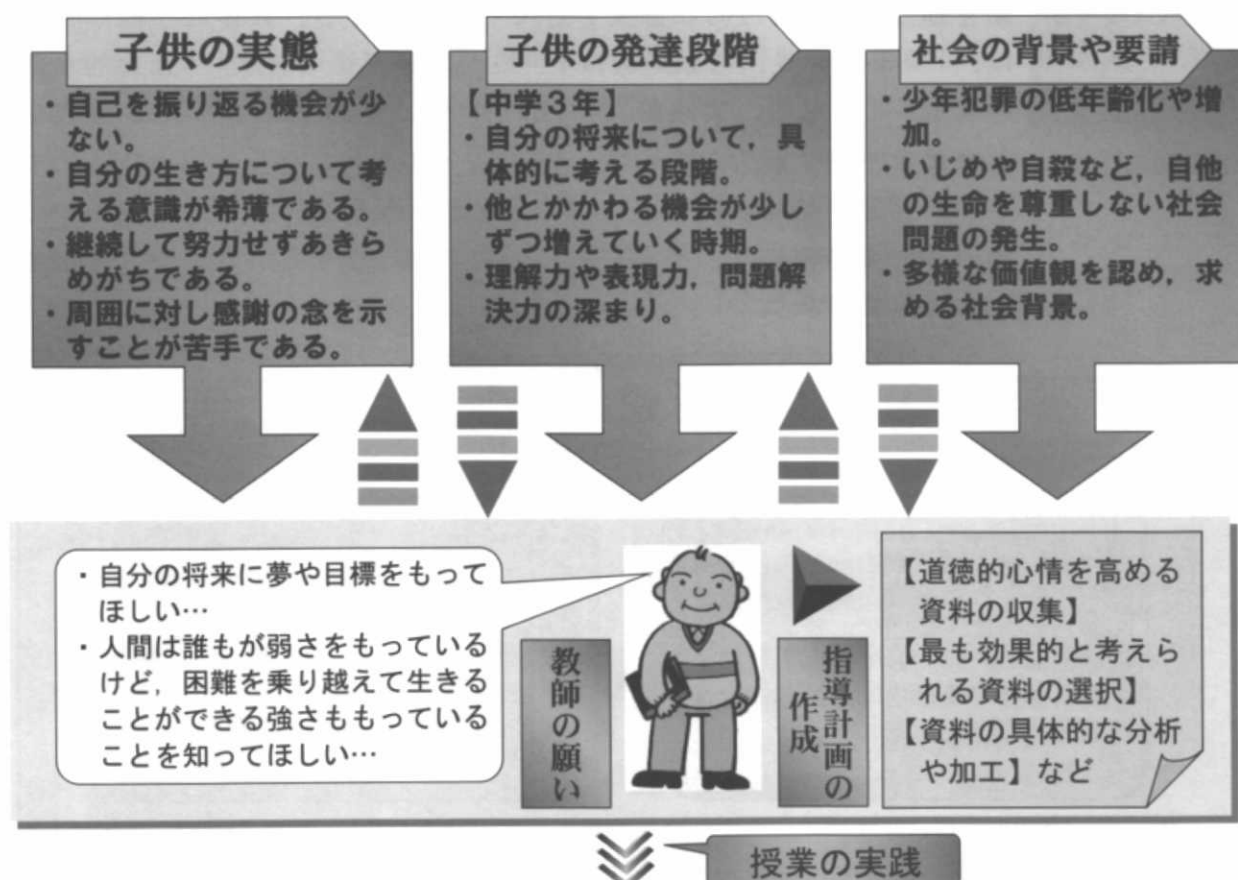
【資料の活用媒体】

- ・副読本 教師の創作物
- ・読み物資料 心のノート
- ・教師の体験 子供の作文
- ・絵 写真 絵本
- ・テレビ番組 新聞や雑誌
- ・インターネット上の情報
- ・ゲストティーチャーの講話等

「心の教育」の実践

未来を拓く力

育成すべき道徳的価値の明確化
と資料の開発・工夫の具体例



『星野富弘さんの著作や作品を資料に活用』

【資料1】
星野さんがけがをするまでの状況が理解できる、著作からの引用文
(発達段階によっては、映像資料の活用も検討)

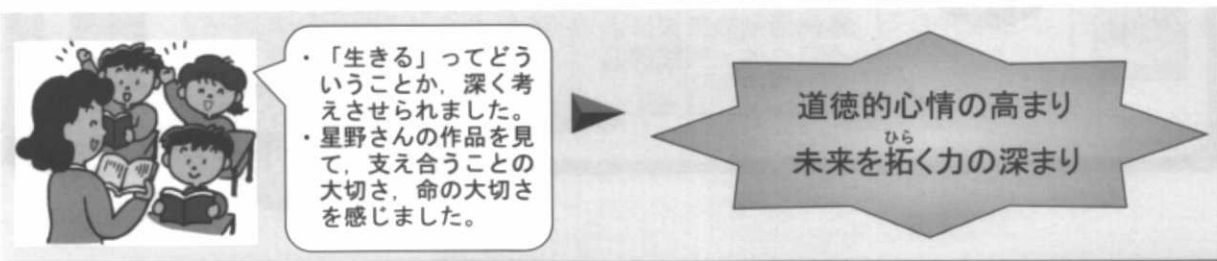
【資料2】
けがをした当時の家族の心情や星野さんの苦境が理解できる、著作からの引用文

【資料3】
星野さんが自分の弱さをありのままに語る、著作からの引用文

【資料4】
星野さんが困難を乗り越える過程での様々な心情を理解できる、著作からの引用文

【資料5】
多くの示唆に富んだ星野さんの詩画集

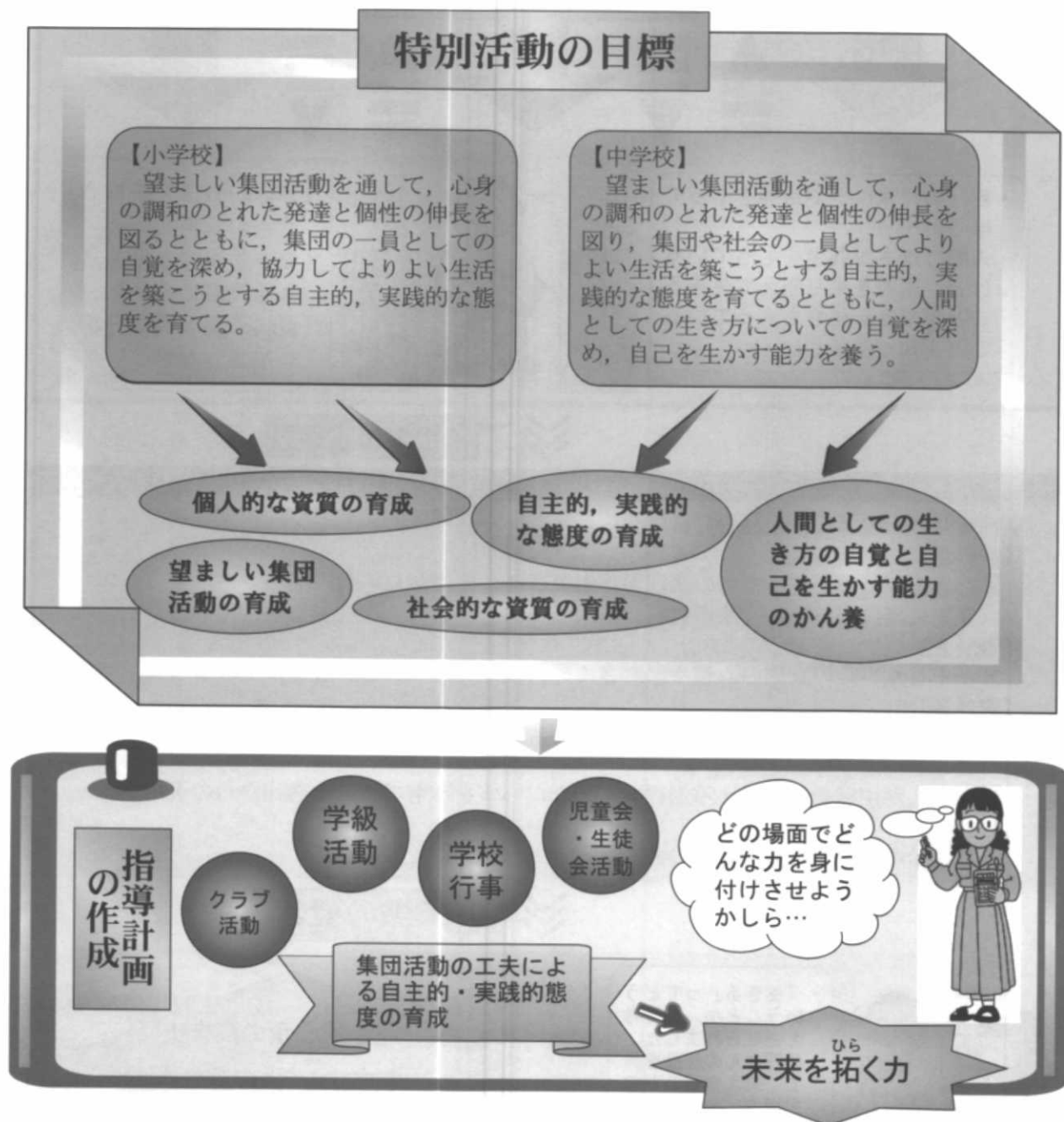
子供の変容



視点2 特別活動の指導に関して

集団の一員としての責任感や協力性をはぐくむ
集団活動の工夫

特別活動の特色の一つは、その目標に示されているとおり、「集団活動を通して」「実践的な態度を育てる」点にある。具体的な観点としては、「望ましい集団活動の育成」「個人的な資質の育成」「社会的な資質の育成」「自主的、実践的な態度の育成」「人間としての生き方の自覚と自己を生かす能力のかん養」が挙げられる。これらの観点について、子供の実態や発達段階などに照らし合わせながら、指導計画において活動の目的を明確にし、授業において身に付けさせるべき力を具体化することが重要である。



集団の一員としての責任感や協力性
をはぐくむ集団活動の工夫の具体例

子供の実態

- ・少数の男子が固まって行動する傾向が見られる。
- ・発言力・リーダーシップのある女子が多い。
- ・授業や給食の準備・片付けに時間を要し、休み時間に集団活動をする機会が少ない。

子供の発達段階

- 【小学2年】
- ・話し合い活動の基本的な形式を理解させる必要がある。
 - ・基本的な生活習慣の形成や望ましい人間関係の育成について、基盤を作ることが大切である。

学校の実態

- ・学校規模は小さく、各学年1学級である。
- ・卒業までクラス替えは行われない可能性が高いため、望ましい人間関係の形成が非常に重要とされる。

学級活動における話し合い活動
「みんなが元気に
なかよくできる方
ほうを考えよう」

話し合いの成果を実際
の子供の活動に反映

指導計画の作成

- ・来年度以降の児童会活動へのかかわりを考えて、話し合い活動の基本を身に付けさせたい…
- ・男女の区別なく、相手を思いやり、物事を考えることの大切さを理解させたい…
- ・学級全体で協力し、物事を進める力を高めたい…



授業の実践

『自分たちで考え、めあてを意識して自分たちで作り上げる話し合い活動』

【議題設定】

子供たちの意見から議題を設定→集団の一員としての帰属意識，責任感をはぐくむ。

【議題の内容】

「みんなで」「なかよく」「元気に」をキーワードに→協力性，他の意見を尊重する態度を養う。

【議題の表現】

発達段階に応じて，簡潔に分かりやすく→話し合いの深まり，めあてを意識した活動を心がける。

【話し合いの方法】

小グループから全体へと発展→発言機会を保障し，学級としての団結の深まりを目指す。



- ・一人一人ではなくみんなでなかよくできることは…?
- ・かぜをひかないように元気に体をうごかそう
- ・外で何してあそぼうか…

・雪が
・おに
・そり
・り
・レ
・ー
・!!
!!



- ・みんななかよくできた!
- ・もったこうすればよかったね。

視点3 総合的な学習の時間の指導に関して

地域環境を生かした体験活動の工夫

総合的な学習の時間の取り扱いについて、学習指導要領の中では、「各学校は、地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとする」と述べられている。総合的な学習の時間の特色はここにある。地域環境などを有効に活用し教育活動に反映させ、同時に実際の学習に体験活動などを取り入れ、問題解決力や主体的な学習態度を育成し、自己の生き方を考える力を身に付けさせることが重要である。



地域環境を生かした体験活動の工夫の実践例

学校や子供の実態

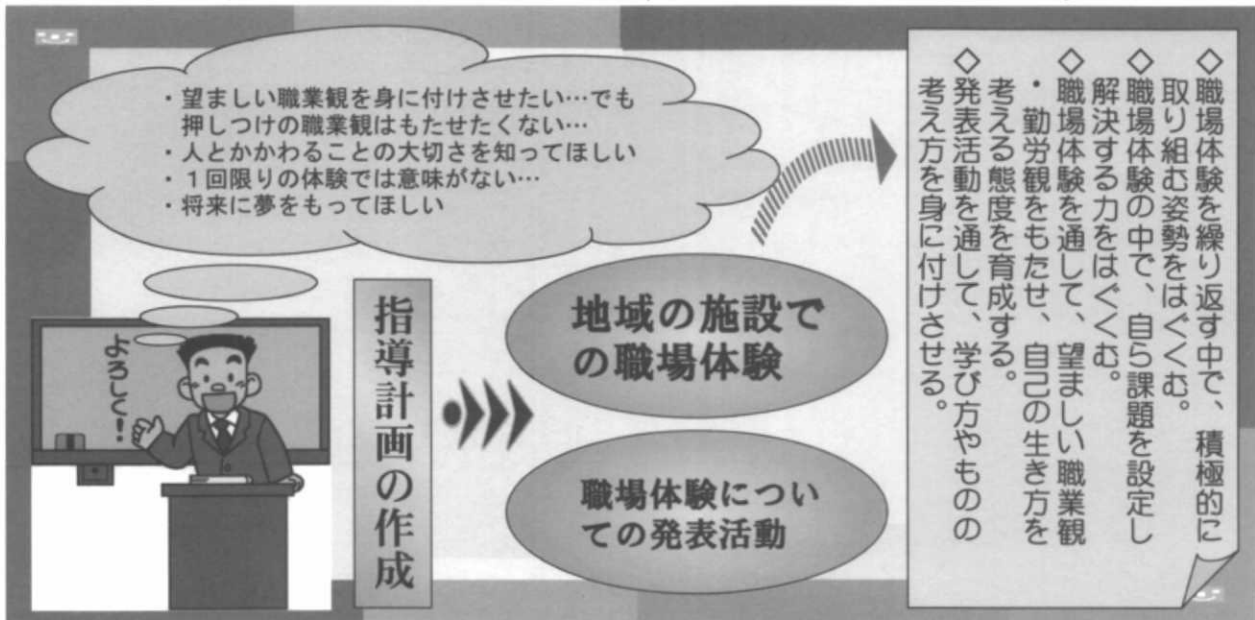
- ・ 体験的な学習を好む傾向がある。
- ・ 人とかかわる体験活動の機会が少ない。
- ・ 問題解決力の定着が不十分である。

地域の実態

- ・ 職場体験の依頼先として徒歩で移動可能な施設が複数存在する。
- ・ 学校の教育活動に対して協力的で、理解が得られやすい。

社会的課題

- ・ 新規卒者のフリーター志向の広がり。
- ・ 就職3年以内の離職者の増加。
- ・ ニートの増加。
- ・ 人間関係の希薄化。



『WAKU WAKU WORK ～ほくらの夢をかなえ隊！～』

【3つの施設における職場体験】

保育園・特別養護老人ホーム・児童センターから選択→自主性・責任感の育成

【職場体験の複数回の実施】

職場体験を3度実施し、少しずつステップアップ→問題解決力の育成

【ゲストティーチャーの活用】

ゲストティーチャーの手紙や講話を活用→自己の生き方について考える態度の育成

【発表活動】

職場体験の成果や課題を、模造紙に表現→創造性・学び方・ものの考え方の育成

職場体験実施



- ・ 働かって、自分のためにも人のためにもなることだ…
- ・ 働かって、大変だけどやりがいがあるな…
- ・ 自分はどんな仕事につこう？ どうやって生きていこう？

ひら
未来を拓く力

Ⅲ 研究員の実践



1 道徳

「心に響く資料の開発・工夫を
ねらいとした『心の教育』の実践」

増毛町立増毛第二中学校

山形 勉 教諭

2 特別活動

「めあてを意識して、自分たちで作り上げる
話し合い活動を通した『心の教育』の実践」

留萌市立潮静小学校

室本 博 教諭

3 総合的な学習の時間

「地域環境を生かした
職場体験学習による『心の教育』の実践」

留萌市立沖見小学校

西條 直志 教諭

心に響く資料の開発・工夫をねらいとした「心の教育」の実践

(中学3年 道徳の時間 主題名『強く生きる』)

増毛町立増毛第二中学校 山形 勉

1 はじめに

(1) 子供の実態

本学級の生徒は、授業にまじめに取り組む姿勢が定着しており、生徒会活動や学校行事においても自己の責任を果たそうとする意識が見られる。その一方で、おとなしい性格と周囲の目を気にする意識の強さから、自らの考えをもちながらも積極的な発言をためらう傾向にある。特に女子生徒についてはそのような意識が強く、一部男子生徒の積極性を、誤った形で頼りにする様子が見られる。そのため、国語科などの授業における自己の意見や思いを表現する学習活動には消極的な面も見られる。本授業においては、資料の著者である星野さんの「生きる姿」について考えさせる中で自己を振り返らせ、人間の弱さを認めた上で自他の生命を尊重し、強く生きようとする意欲を高めさせたい。

(2) 主題について

中学生という多感な時期においては、様々な悩みを抱える。学習や部活動への取組の中で、あるいは友人との人間関係の中でざ折感や無力感を味わい、生きる意味を見いだせなかったり自己の命を軽々しく考えたりすることもある。また、その過程において己の醜さや弱さに気付き、自己嫌悪に陥ったり良心の呵責かしゃくに悩んだりする。それは、ありのままの人間である以上自然のことであり、同時に弱さや困難を乗り越えていこうとする点にこそ、人間としてのすばらしさがあるといえる。したがって、人間である自分の存在に絶望することなく、目指す生き方、誇りある生き方を模索し、実践しようとする意欲を養うことが大切である。さらに、自分が多くの人に支えられていること、困難を乗り越える際に様々な人の助けがあることを理解させ、周囲への感謝の気持ちをもてるよう支援したい。このような活動を行うことで、未来に希望をもち豊かに生きようとする心を育成することができると思う。

(3) 資料について

星野富弘さんは、1970年、群馬県高崎市立倉賀野中学校に体育教諭として赴任した。同年6月の放課後、器械体操のクラブ活動を指導中に、誤ってマットに頭から墜落。頸髄(※原文のまま)を損傷し、手足の自由を失った。その後9年の入院生活の中で、口に筆をくわえ詩画を描き始め、1979年の5月には前橋市で第1回の詩画展を開いた。なお、口に筆をくわえ描き始めたのは、けがをしてから2年後。同室に入院していた中学生を励ますための寄せ書きがきっかけだった。以後、国内外で「花の詩画展」を開くとともに、多くの詩画集を出版するなど、自宅で療養の傍ら詩画の創作活動をしている。星野さんの作品は見る者に大きな感動を与える。ともすればそれは、口で描くという創

作方法の困難さゆえであるかのように思われるが、誤解である。作品には、生きることの喜び、あるいは生命の輝きそのものが満ちあふれており、それが見る者の心を打つのである。絶望の中で己を見つめ直し、命に感謝しながら前向きに生きる星野さんの姿は、人間の強さ、困難を克服し崇高な人生を目指す尊さを、私たちに教えてくれる。しかし、星野さんがそのような生き方にたどり着くまでには、様々な葛藤^{かっとう}があった。ときに己の弱さや醜さを自覚し受け入れ、それを克服するために乗り越えた困難の重さは、想像するに余りある。そして星野さんは、そのような弱さや醜さを、著書の中で隠すことなく記している。

生徒には、詩画作品や著書に触れる中で星野さんの弱さに気付かせ、また自分のもつ弱さを振り返らせ、全ての間人は完全なものではないことに気付かせたい。その上で、人間こそがもつ強さ、弱さを克服し困難を乗り越えて生きていける強さを大切にし、自己の目指す生き方について考えさせ、誇りをもって生きようとする意欲を高めさせたい。

2 研究内容とのかかわり

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

【視点 道徳の時間の指導に関して】

本研究において、道徳の時間の仮説は

道徳の時間において、自己理解を促し自己肯定感を高めるような学習活動を実践することで、道徳的価値の自覚を深めさせ、積極的に自己の在り方や生き方を確立しようとする主体性をはぐくむことができる。

となっている。

現代社会の激しい変化に対応し、自らの「未来を拓く力」を子供たちに身に付けさせるためには、豊かな心をはぐくむことが求められる。美しいものに感動したり、正義や公正さを大切にしたり、あるいは生命を尊重したりするような人間らしい価値観が養われなければ、自らの未来に希望を見いだすことは難しい。また、そのような価値観は、子供たちが自分自身と向き合い、的確に自己を理解し肯定する中で深まるものでもある。この「道徳的価値」と「自己理解・自己肯定」は、互いに密接に関連・補充し合いながら、子供たちの中で深まりゆくものと考えられる。そのような過程の途上で、あるいはそのような過程を経た上で、主体的に自己の理想像や生きる目標を明確にすることが、「生きる力」の育成である。

本時においては、星野さんの生き方に自分の生き方を重ね合わせながら、自己理解・自己肯定を促す。その上で、星野さんの生き方を子供たちそれぞれが理解する中で、自らが今後どのような生き方を目指すかという命題についても考えることとなる。これらの学習活動によって、「自らを知り、主体的によりよく生きようとする子供」を育成することができる。と考える。

(1) 心に響く資料の開発・工夫

本授業で活用する資料は、星野さんの著作からの引用文、そして詩画集及び作品である。けがをするまでの経緯については、映像を用いて理解させることも可能であり、視覚に訴えることで、より生徒の関心を高める効果が期待できる。しかしながら、本時においては、当時の星野さんの状況を的確に理解させるため、資料1として著作からの引用文を用いる。同時に、資料2としてけがをした当初の様子を家族が記した引用文を活用することで、星野さんがどれほどの苦境に立たされていたかを感じ取らせたい。また、家族の献身的な介護についても、生徒自身が気付くことを期待したい。資料3は、星野さん自身が、自分の弱さをありのままに語る引用文である。これを活用することで、星野さんという存在を、自分と同じ弱さをもつ人間としてとらえさせたい。資料4は、星野さんが困難を乗り越えようとする中で、様々に思いを巡らせた心の様子が述べられた引用文である。文字や絵を書くことで見いだした希望、周囲の人々への感謝など、人間が生きていく上で大切なことが表現されており、生徒の心にも響くものと考えられる。詩画集の作品は多数あり、またいずれも私たちに多くのことを考えさせてくれる示唆に富んでいる。深く読み味わわせることで、生徒が得るものは大きいと考えられるが、それには相当の時間を保障することが求められるため、本時においては困難である。ここでは、星野さんの花に対する思いや、それを表現することを感じている喜び、その作品のすばらしさや強く生きている星野さんの姿などに、生徒が触れることを目的としたい。

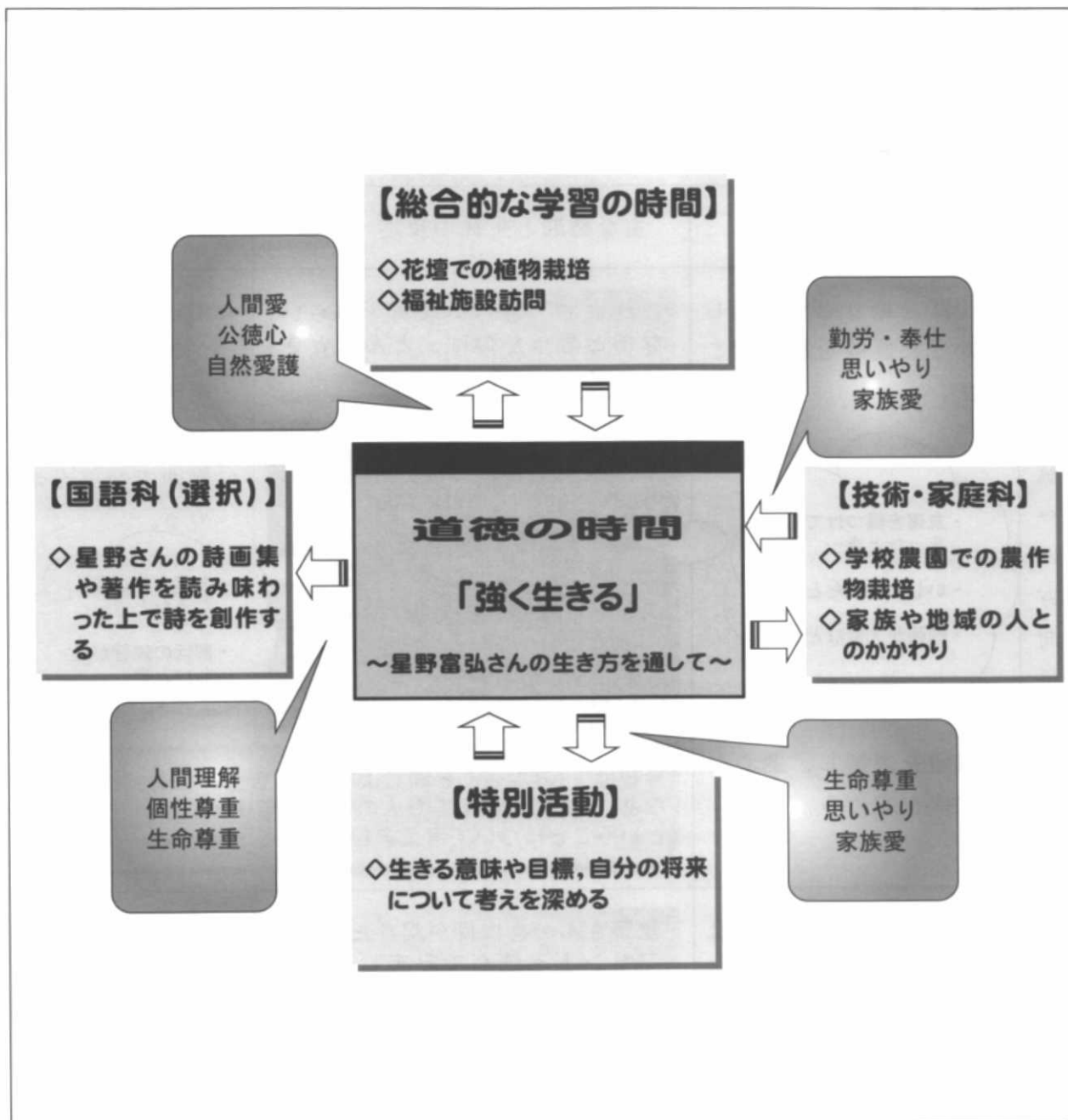
(2) 指導体制・方法の工夫

本授業において指導者となるのは、3学年に所属する副担任の教諭である。「道徳の時間」の指導は、計画に基づき担任教諭が行う形態が一般的であるといえる。それは、望ましい学級集団の風土を継続指導によって形成する上で必要なことである。一方で、普段と異なる指導者が道徳の時間の指導を行うことで、生徒の感じ方も変化し、より広い視野で考えを深める効果も期待できる。また、担任教諭が生徒観察に専念することで、客観的視点からより詳細な生徒の見取りが可能になると思われる。もちろん、一般的な複数指導体制の構築も考えられるが、指導内容に照らし合わせたとき、1人の教諭が授業を進める形態が、生徒にとって落ち着いた学習環境を保障できると考えた。

具体的な指導方法(内容)について特に留意したいのは、星野さんと自分を、「弱さをもった同じ人間」と捉えさせることである。星野さんが、自分とかけ離れた強靱な精神力をもった人間であるというような認識に、生徒が陥らないよう配慮することが必要である。そのため、星野さんの弱さを十分に感じさせた上で自己を振り返らせ、比較させながら考えを深めさせたい。また、終末の感想をまとめる場面では、自由に記述させる中で、今後の自分の生き方についての視点をもてているか見取りたいと考える。



(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

「生きる」ことについては、学校活動のあらゆる場面で関連付けた指導を行うことができる。次ページにその一例を挙げたが、特に国語科においては、星野さんの著作が教科書で採録されていたこともあり、異なる視点から作品を読み味わわせ、道徳性を養う指導が考えられる。



3 本時の実際

・人間の弱さや醜さを自覚した上で、それを克服し人間としての誇りをもって生きようとする意欲を高める。

	学習活動	主な発問と生徒の反応・意識	指導上の留意点
<p>道徳的価値への方向付け</p>	<p>◇生活を振り返り、苦しかった経験を思い起こす。</p> <div data-bbox="232 640 582 965" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を傷つけてしまったとき… ・いじめられたとき ・勉強が大変なとき </div> <p>◇課題を理解し、関心・意欲を高める。</p>	<div data-bbox="632 472 1113 607" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これまで、苦しいなあ、つらいなあと思ったのは、どんなときですか。</p> </div> <div data-bbox="628 622 1113 992" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="632 1010 1398 1155" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今日は、(みなさんと同じように)「苦しいなあ」「つらいなあ」という経験をした人のことを知りながら、「生きる」ということについて考えましょう。</p> </div>	<p>☆無理に考えをもたせたり詳細の説明を強制したりせず、可能な範囲で発言を求める。</p> <div data-bbox="1094 763 1413 981" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲が悪くなったとき… ・部活の練習が厳しいとき… </div>
<p>道徳的価値の把握・追究</p>	<p>◇資料1と2を読み、星野さんがけがをした経緯、当時の状況について知り、星野さんの立場に立って、心情を想像する。</p> <div data-bbox="232 1518 602 1850" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・何もできなくなるから周りの人に迷惑をかけてしまう… ・最初は頭が真っ白で何も考えられない… ・生きていけない… ・不安… ・夢だったらいいのに </div> <p>◇星野さんが何度も自殺を考えたことを知る。</p>	<div data-bbox="632 1205 1113 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>星野さんの身に何が起きたのか、プリントを読んでみましょう。</p> </div> <div data-bbox="632 1335 1113 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みなさんが星野さんのように、首から下が動かなくなったら、どのようなことを考えますか。</p> </div> <div data-bbox="628 1536 1113 1899" style="text-align: center;">  </div>	<p>☆質問に応じるなどして、状況を的確に理解させる。</p> <p>☆「想像できない」等の意見も認め自由な発表を促す。</p> <div data-bbox="1141 1671 1387 1933" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・何もしたくない… ・死んでしまいたい ・どうして自分がこんな目に… ・この先どうしよう ・これからどうなるのか…怖い… </div>

◇星野さんの立場に立って、心情を想像した後、資料3を読み、星野さんの心情を知る。

- ・うらやましい
- ・周りの人をねたむ
- ・自分の姿を誰にも見せたくない
- ・迷惑をかけている
- ・なぜこんなことに

体が動かなくて、自殺しようとするほど絶望しているときに、周りにいる人を見たら、みなさんはどのようなことを考えると思いますか。



- ・憎らしい
- ・なぜ自分だけ
- ・また動けるようになりたい
- ・今の自分には何もできない

◇作品を見ての感想を発表した後、創作方法について想像する。

- ・すごい…
- ・花の絵ばかりだ…
- ・どうやって描いたんだろう？



☆素直に自己の考えを発表できるよう支援する。

- ・口で描いたなんて信じられない…！
- ・自分よりうまい…
- ・口で描いたとか関係なくともきれい…

道徳的価値の内面化

◇星野さんの「生きる力」自分の「生きる力」について考えた上で資料4を読み、困難を乗り越える過程の、星野さんの心情を知る。

- ・つらい思いを絵を描く力や生きがいに変えた
- ・人間なのだから、何かをして生きていたいと思ったから
- ・自分と同じように病気やけがと闘っている人がいると知ったから

星野さんが、困難に負けず頑張ることができたのはなぜか、考えてみてください。思い浮かばない人は、自分が苦しいとき、どのようにして乗り越えたか振り返りましょう。



- ・けがに負けて、ベッドに寝たきりになるなんて絶対嫌だった
- ・健康な人をひがむ自分が嫌だった
- ・周りの人に喜びを届けたいと思った
- ・周りの人たちが支えてくれたから

実践への意欲化

◇感想をまとめる。
授業を通して感じたり考えたりしたことを、プリントに記入してください。星野さんの生き方を短い言葉で表現してみましょ。

- ・「生きる」ってどういうことか深く考えさせられた。
 - ・「生きる意味」は、生きていく中で見付けるものかもしれないと思ったし、自分で見付けたいと感じた。
 - ・いじめなどで自殺してしまう人がいるが、星野さんに対して失礼なことかもしれないと思った。精いっぱい生きたい。
 - ・星野さんの作品を見て、星野さんの強さや周りの人たちの支え、命の大切さなど、いろいろなことを考えさせられた。
- 【懸命に】【一日一日を】【今を】【明日を】【精いっぱい】生きる
生きる【意味】【力】【事の難しさ】【魂】【理由】【とは】

【本時と同一資料を活用しての異なる授業展開案】

・困難の中においても、自分を見つめ周りの人の支えを得ることで、強く生きることの尊さを知り、また他に対する感謝の気持ちをもつことの大切さを理解する。

	学習活動	主な発問と生徒の反応・意識
方向付け	<p>◇星野さんの作品を見て感想をもち、口で絵を描いたことを知る。</p> <p>◇課題を理解し、関心・意欲を高める。</p>	<p>この絵を見て、どのように思いますか。</p> <p>・すごい ・とてもきれい ・花の絵ばかりだ</p> <p>星野さんは、どうしてそのようにして絵を描くようになったのでしょうか。星野さんの生き方に触れながら、「生きる」ということについて考えましょう。</p>
価値の把握・追究	<p>◇資料1（映像）を視聴して、星野さんの状況を理解し、その立場に立って、考えを深める</p> <p>◇資料2を読み、星野さんが何度も自殺を考えたと知る。</p>	<p>みなさんが星野さんの立場だったとしたら、どのようなことを考えると思いますか。</p> <p>・何もしたくない ・どうして自分がこんな目に ・死んでしまいたい ・頑張っで以前のように ・自分と同じだ…</p> <p>星野さんは、「死んでしまいたい」と何度も考えたそうです。</p> <p>・それなのに、あんなすごい絵を描けたのはなぜ？</p>
価値の内面化	<p>◇再び星野さんの作品を見て、星野さんの「生きる力」、自分の「生きる力」について考えを深める。</p> <p>◇配付された星野さんの作品の空欄に当てはまる言葉を考えた後、星野さんが願ったことを確認する。</p>	<p>星野さんが、困難に負けず、こんなにすばらしい作品を描くことができるようになったのはなぜか、考えてみましょう。思い浮かばない人は、自分が苦しいとき、どのようにして乗り越えたか振り返りましょう。</p> <p>・周りの人の支えがあったから ・花の美しさや生命力を見て、生きたいと強く思った ・けがに負けて、ベッドに寝ていることが嫌だった ・支えてくれた人のために、何かを作りたい ・もっとすてきな花の絵を描きたい</p> <p>自分が星野さんのような立場に立ったとして、「神様がたった一度だけこの腕を動かしてくださるとしたら」、何を願うか、プリントに記入しましょう。</p>
意欲化	<p>◇感想をまとめる。</p>	<p>授業の中で感じたり考えたりしたことを、プリントに記入してください。</p>

資料 1

私が器械体操を初めて見たのは、小学生の時です。真っ白い運動着の体が、考えられないほど高くジャンプして回転するのが、強くまぶたに焼き付いてしまいました。中学校に体操部はありませんでしたが、この三年間も器械体操への夢は消えませんでした。だから、高校に入学すると、すぐに器械体操部に入りました。そして、それから大学を卒業するまで、器械体操を続けることになったのです。

私は群馬大学を卒業するとすぐ、群馬県の高崎市にある市立倉賀野中学校の先生になりました。体育の先生です。

それから、二カ月が経った頃。放課後体育館に行き、生徒たちに続いて、何度目の宙返りをしたときでしょうか。どうしたことか、マットに頭から落ちてしまったのです。でも、今まで何十回とやってきた失敗の一つだと、別に気にもせず、ひっくり返っていました。

しかし、ひっくり返ったまま、どうしても起き上がることができないのです。そういえば、落ちた瞬間、耳の奥の方で大きな音がしたような気がしました。ひたいには冷たい汗をかいているようでしたし、どうもいつもと様子が違います。

次に宙返りをするために、並んでいた生徒が足踏みをして、私がマットからどくのを待っている気配です。手を動かそうとしましたが、不思議なことに、どこに力を入れてよいのかわかりません。足は、ふらふらと空中に漂っているようで、首から下が、どこかにいってしまったのではないかと思いました。

生徒たちも、いつもと違う様子に気付き始め、三人、四人と、心配そうに私の周りを取り囲み始めました。

……腕があるのだろうか……？

横に来た一年生の男の子に、恐る恐る聞いてみました。

「手を持ち上げてみてくれないか？」

その子は不思議そうな顔をして、私の横から何か持ち上げました。

「もう少し高く。」

男の子が持ち上げたのは、まぎれもない私の太い腕でした。しかし、その子が握っている感覚もなければ、持ち上げられた感じもありません。「腕はあった。」と思っただけの喜びも、いきなり恐ろしい闇の中へ突き落とされた感じでした。

「大変なけがをしてしまったぞ……。」

体の奥の方からそんな声がしてきました。青ざめた母の顔が、すーっとまぶたに浮かびました。年とった父の顔も浮かんできました。

運び込まれた病院の診察室では、私のけがに、頸髄損傷という難しい名前が付けられていました。

資料 2

鼻にさしこんでいた酸素吸入の管がもとの鼻血がでてとまらない。ガーゼをつめられてくるしそう。口から酸素呼吸をしているのが見てられない。

手術。声が出なくなる。熱も39度を超え、血圧、脈も乱れて危険状態。

呼吸は確保できたが、言葉がわからなくなり苦勞する。熱は、40度近い。7カ所で冷やしているが、氷がすぐ溶けてしまう。

肺炎の兆候がある。ベッドを傾斜させる。頭を非常に痛がるので10分おきくらいに移動させる。のどにたんがつまるので、呼吸口から吸引。

昨夜から人工呼吸器の調子が悪く、眠れない様子。午前3時頃、麻酔科の当直の先生に調節してもらったが、なお悪くなり、苦しがる。

夕食に見向きもしない。飲み込むとき、ものすごく痛いらしい。薬だけ何とか飲んでもらう。涙がこぼれて見守る方も苦しくなる。

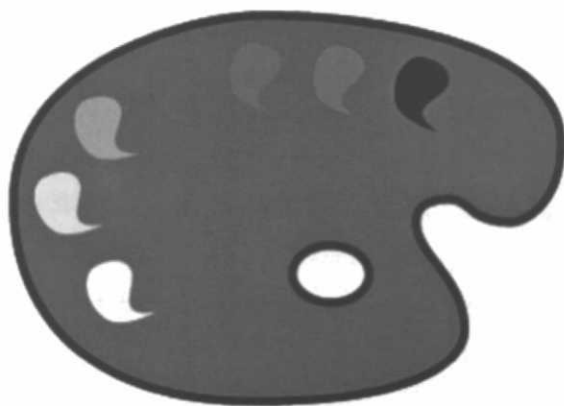
資料 3

しあわせな人を見れば、にくらしくなり、大げがをして病室にかつぎこまれてくる人がいれば、仲間ができたような気がして、ほっとしたり、眠れない夜は、自分だけが起きているのがしゃくにさわって、母を起こしたり…。

からだのどこかが人の不幸を笑っている。

人の幸せがにがにがしく、少し気に入らなければ、「あいつもおれみたいに動けなくなればいい」と思ったりする。心の隅にあったみにくいものが、しだいにふくらんできたような気がする。からだの不自由さから生じた「ひがみ」だろうか。

自分が正しくもないのに、人を許せない苦しみは、手足の動かない苦しみをはるかに上回ってしまった。



資料4

〈何度も生と死の間をさまよったとき〉

病院の先生や看護婦さんたちの手厚い治療と、母や姉や弟たちのつきっきりの看病のおかげでした。

〈初めて口で文字を書いたとき〉

目の前が、パーッと明るくなりました。次の日も、その次の日も、横向きになるのが楽しみでした。

〈一字ずつ増えていくスケッチブックの文字を見たとき〉

今はへなへなして、見かけの悪いものだけれど、時間をかけて、一本の線、一つの点をしっかりと書けるように練習していけば、いつかきっと、美しい字が書けるようになると思いました。

〈来ないと思っていた看護学生が、大晦日の夜、見舞いに来たとき〉

私の心を何よりも明るくさせてくれたのは、たあいもない約束を実行してくれた、彼女たちの優しい気持ちでした。私が忘れていた約束を、彼女たちは守ってくれたのです。私はけがをして、たくさんものを失いました。手でものを握ることも、足で歩くことも、それどころか、人を信じる心さえ失いかけていたのです。どんな時でも人を信じ、また、信じられるということ、忘れてはいけないと思いました。そして、それが私を、もっとも生き生きとさせてくれる力になるのだと、自分に言い聞かせました。

〈お正月も付きっきりで看病してくれる母について考えたとき〉

考えれば考えるほど、自分のことだけしか考えず、自分の苦しみだけを苦しんでいた私が、恥ずかしくてなりませんでした。

〈お見舞いに花をもらったとき〉

丹精して育てた美しい花を切って、私にくれた西尾さんに、何かお礼ができたらと思ひ、「絵にして西尾さんに贈ろう」と考えました。

〈花の絵を描いているとき〉

よだれを垂らしながら、ありったけの力をぶつけて引く線のうしろに、らんの花が一つずつ増えていくのは、絵というよりも、胸の中に開き始めた希望だった。

(星野富弘著 「かぎりなくやさしい花々」「四季抄 風の旅」より抜粋)

4 成果と課題

(1) 心に響く資料の開発・工夫

[成果]

- ・資料を適切かつ効果的に活用することにより、生徒は集中して授業に取り組むことができ、また授業のねらいに沿った意欲的な思考を促すことができた。
- ・広く資料の開発・工夫に取り組む中で、生徒の実態に合った資料、授業のねらいに迫る資料を取捨選択することができた。

[課題]

- ・様々な資料を活用する授業においては、展開の方法がいくつも考えられる。授業のねらい（主たる価値項目）に迫るために、どの段階でどの資料をどのような方法で提示するかについて、十分検討する必要がある。
- ・生徒の思考を揺さぶり、ときに生徒の考えが覆されるような授業展開が、意欲の喚起につながるため、生徒の実態や授業の内容に合わせ、資料の活用方法を吟味することが大切である。

(2) 指導体制・方法の工夫

[成果]

- ・授業者が、授業内容に合った雰囲気作りや資料の「読み」の方法を工夫したことで、生徒は真剣に授業に取り組むことができた。
- ・生徒自身と星野さんに共通する人間の弱さを理解させることで、自己の生き方を深く考えさせることができた。

[課題]

- ・中心発問、補助発問の位置付けを明確にし、授業展開の時間配分を考えることで、授業のねらいにより迫ることが必要である。
- ・生徒観察を丁寧に行い、価値ある考えを全体交流に生かすことで、学習をより深めることが求められる。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

[成果]

- ・国語科などの異なる学習の場面で、生命の尊重について考える活動を行っていたため、生徒が抵抗なく「生きること」について考える様子が見られた。
- ・生命尊重に限らず、様々な価値項目について、異なる領域の連携を図ることで、より効果的な学習を行うことができ、学校全体としての道徳教育を実現できると確認された。

[課題]

- ・「道徳の時間」においてねらいとする価値内容を、子供の実態などに合わせ計画的に位置付けた上で、他領域との関連性を明確にすることで、道徳教育の更なる充実を図る必要がある。

めあてを意識して、自分たちで作り上げる話し合い活動を通した「心の教育」の実践

(小学2年 特別活動 単元名『冬もみんなでなかよく元気にすごそう』)

留萌市立潮静小学校 室本 博

1 はじめに

(1) 学級の日常生活から

学級の成員は、男子6名、女子11名と男女の人数に大きな偏りが見られる。日常の生活や学習活動の中でも女子の方が発言回数が多く、リーダーシップを発揮する児童も女子の方が多い。そのため、自由な活動の中では、学習でも遊びでも、男子が固まって行動しようとする傾向が強い。席替えのときなどには、女子から、「男子と隣になってがっかり」といった声が聞かれることもあった。

しかし、教師が入った遊びの中では、男女仲良くほぼ学級全員で遊ぶことができている。また、男女関係なく集まって本を読んだり、トランプをしたりすることもある。

本校は、学校規模もあまり大きくなく、クラス替えがないため、現在のクラスがそのまま卒業まで一緒になる。2年生の今の段階で、男女が楽しく一緒に活動する体験を増やしていくことが今後の人間関係作りのためにプラスであると考えている。

学校生活の中で、中休みと昼休みが長い休み時間となるが、中休みは体育館が使えて、昼休みは使えない。昼休みは、給食を食べたり片付けたりするのに時間がかかるため、10分ほどしか取れていない。そのため、中休みは教師も入って体育館で鬼ごっこ、昼休みは教室で過ごしていることが多い。他の学年では、休み時間も外で遊ぶ児童の姿が多く見られるが、2年生はほとんどいないので、もっと外で活動する機会があってもよいのではないかと考えている。

(2) これまでの学級活動の様子から

1年生のときは、学級活動といっても、みんなで話し合っって何かを決めていくという活動をあまり行ってこなかったようである。実際の活動の中では、話し合っって役割分担を決めたり、協力して活動したりすることは行っっていても、あくまで教師主導の活動であっった。

2年生の2学期になっって、「学級会」という言葉を教え、その役割や話し合いの進め方、物事の決め方などを少しづっ練習してきった。4、5人という少数での話し合いでは、リーダー役、記録役を決めて自分たちで話し合いを進めることができるようになってきっている。

3学期に入り、3年生での本格的な自主的学級会の運営を視野に入れ、議題を決める係を設定して話し合わせたり、学級会の全体進行情も教師が手伝いながら子供たちの手で進められるように練習をさせたりしてっるところである。

話し合いでの発言の仕方や聞き方は、十分とはいえないまでも、話題からそれないようにすること、自分の立場を明らかにしてから発言すること、発表者の方をしっかりと見ることなどを、少しづっ意識してできるようになってきっている。今後、よりよい話し合いができるようになるために、自己評価や互いのよい面を評価し合う場面を設けていっきたいと考えてっいる。

2 研究内容とのかかわり

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

【視点 特別活動の指導に関して】

本研究において、道徳の時間の仮説は

特別活動において、個性を大切にしながら、集団の一員としての責任を自覚できるような学習活動を行うことで、共に支え合って生活しようとする実践的態度をはぐくむことができる。

となっている。

「豊かな心」をはぐくむために、道徳の時間においては、自己を深く見つめることに主眼が置かれているのに対し、特別活動においては、自己理解に立った上での他者との豊かなかかわりに重点を置いている。それは、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする主体的、実践的な態度を養う。」とする特別活動のねらいと合致している。本時においても、2年生なりに「みんなのために何ができるか」を学級の一員として考える責任と、協力して活動しようとする態度をはぐくんでいきたい。

本時では、「内容Aの（1）学級や学校生活の充実と向上に関すること」について扱っている。

（1）学校行事や学級活動における集団活動の工夫

学級として共通の目標をもって、自分たちで活動を計画し、実施することで、共に支え合って生活していこうとする実践的態度が育っていく。本時においては、「元気」と「なかよく」をキーワードとして、共通の目標を意識させて話し合い活動を行っていく。

議題カードをポストに入れさせ、話し合いの議題を子供たちから出させることで、自分たちの考えを基に、自分たちのための話し合いをしているという自覚が生まれると考えている。

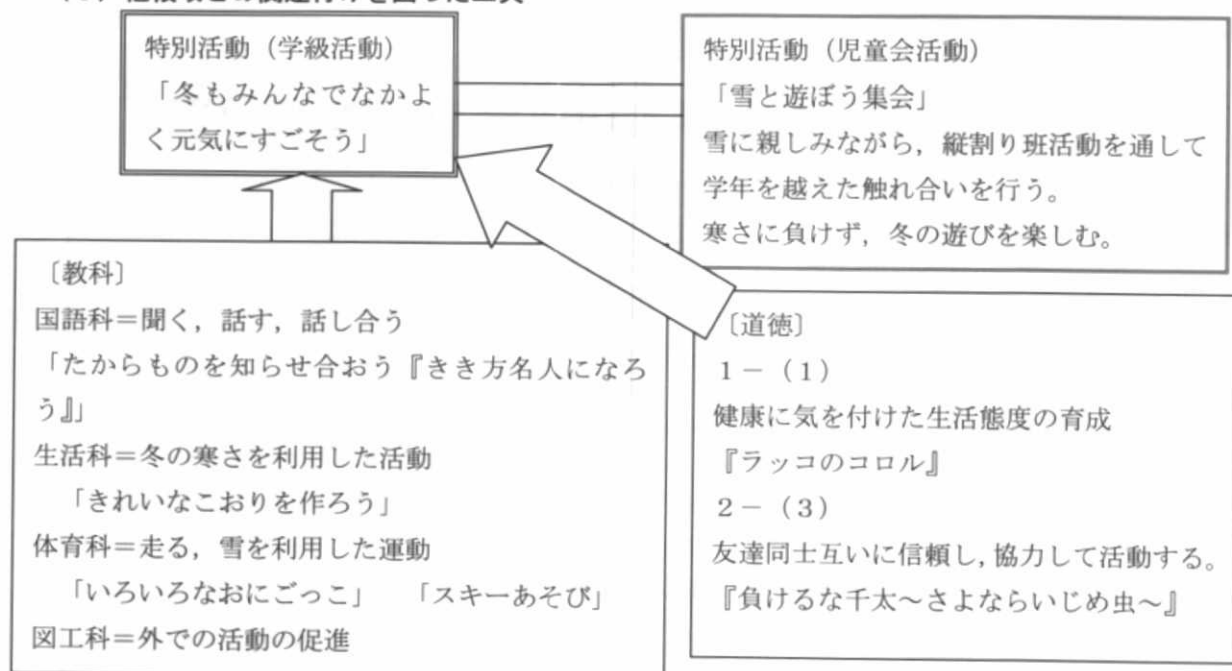
2学期末のお楽しみ会で、自分たちでゲームを考え、みんなで楽しく遊んで充実感を得た経験がある子供たちなので、本時の活動である冬を元気に仲良く過ごすために、外での遊びを考えることに対して、子供たちは意欲的に取り組むだろう。

（2）指導体制・方法の工夫

本時では、話し合いを2つの段階に分けている。初めに、学級全体で冬でも元気に過ごす方法を考えるが、全体の中では積極的に発言できない児童もいる。しかし、集団の一員としての帰属意識を高めるためにも、話し合い活動で一度は全員が発言する機会を作ることがよいと考えている。そこで、授業の後半では、机の近い者同士でグループを作らせ、少人数での話し合い活動を設定することで全員が発言できるよう支援したい。また、座席ごとのグループで活動させることで、単元設定の理由にもあるように、男女の区別なくみんなで仲良く活動する機会を与えることができる。

議題の設定や話し合いの進行を、事前指導をしっかりと行いながら、発達段階に照らし合わせ可能な範囲で子供たちの手にゆだねていくことで、係や進行の児童に責任感をもたせたり、充実感を味わわせたりすることができる。また、振り返りの場面で評価活動を行うことで、互いのよさを認め合うことができ、集団における望ましい人間関係を築くことができる。

(3) 他領域との関連付けを図った工夫





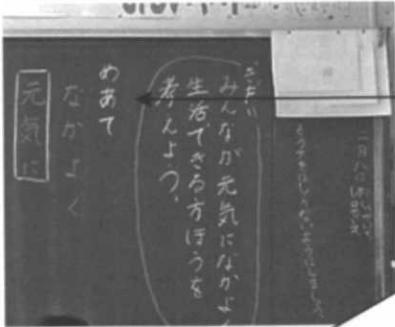

3 本時と関連する学級活動の事前・事後活動

題材名	主な活動内容	本時とのかかわり
かかりをかえよう	◎新しい学期の新しい係を考える。 ○みんなの生活をよくするために係活動があることを理解する。 ○譲り合ってけんかをせずに決める。	・司会の練習 ・立場を明らかにした発言 ・学級会係の設置
鬼を退治しよう	◎心の中の鬼(なまけ忍者)を退治するために豆まき集会を計画、実施する。 ○豆まきの由来を知る。 ○豆まきの仕方を考える。 ○後片付けの方法を考える。 ※朝の短学活での詩の朗読との関連 ※図工でのお面作りとの関連 ※道徳での自己の生活態度を見直す活動との関連	・議題の選定方法の理解 ・司会の練習 ・話し合ったことを実践する場の確保
本 時		
冬もみんなでなかよく元気にすごそう (事後) 〔休み時間〕	◎みんなで決めた遊びで楽しく体を動かそう。 ○チーム分けやルール説明などを事前に行うなど活動時間が十分取れるように工夫する。 ○遊びの中で、全体の気持ちを考えた行動がとれる。	・話し合ったことを実践する場の確保 ・与えられた役割をしっかりとやり遂げさせることで、充足感をもたせる。

4 本時の実際

◎寒さに負けずに、みんなが元気で仲良くなれるというめあてを意識して、話し合いに参加しようとする事ができる。

- ・寒さに負けない強い体を作るために、積極的に外で活動する意義に気付くことができる。
- ・みんなが楽しめるという視点に立って、思ったことを発表することができる。

段階	主な学習活動	児童の活動	支援・評価
課題把握	1 はじめのことば		司会はその日の日直が行い、多くの子供が経験できるように配慮する。
	2 ぎだいのかくにん	みんなが元気になかよくできる方ほうを考えよう	子供たちが学級会のポストに入れたものから、係の子供と教師が相談して選び出した議題
	3 ていあんりゆうのせつめい	みんなが、かぜをひかずに、なかよく元気に生活できたほうがいいからです。 	子供が出した議題の提案理由を子供自身が発表することで、自分たちの問題であることを意識させる。
	4 めあてのかくにん 《元気に》 《なかよく》		全員で音読させることで、話し合いで考えるべき観点を強く意識させる。
課題解決	5 話し合い (1)冬でも元気に過ごす方法を考える[全体]		一人一人が努力できることだね。「みんなで仲良く」に関係するのはどれかな。
		すききらいなく食べるようにする。 うがい、手あらいをする。	めあてに立ち返り、今日の話し合いに、より合致するものを考えさせる。

天気がよい日は、外で体をうごかしてあそぶ

(2) なかよく元気に
 すごす方法を考
 える〔グループ、
 全体〕



前にやった雪
 がっせんが楽
 しかったよ。

たかおに、ドッジ
 ボール、何が
 いいか決まら
 ないな。



評価①

・日常の学校生活に目
 を向けさせ、外で活動
 する機会が少ないこ
 とに気付かせる。

話し合いの途中経過を全体に伝
 えながら、意見の調整を図った
 り、めあてを確認したりしてい
 く。

- 雪がっせん
- ドッジボール
- かんけり
- ソリのりゲーム



どんな方法で鬼を決めたら、
 みんなから文句が出ないかな
 ？

1人何周するの？ルールをし
 っかり決めておかないとみん
 なが楽しめないよ。



考える時に常に「なかよく」を
 意識させるように各班の話し合
 いでアドバイスをを行う。

・話し合いの結果の全
 体発表

活
 動
 の
 振
 り
 返
 り

6 話し合いのはんせ
 い



自己評価カードに記入する。

- ・話し合いのめあてに気を付けて考
 えることができましたか？
 ◎11 ○6 △0
- ・自分の考えをはっきり言えまし
 たら？ ◎7 ○8 △2
- ・友達や先生の話をしっかり聞けま
 したか？ ◎13 ○4 △0

評価②

・これまでの外遊びの
 経験や、体育館での活
 動を想起させる。

7 先生の話

とてもめあてを意識して、話
 し合いができていました。
 今日の話し合いの中で頑張っ
 ている友達はいましたか？



評価①②

・先生の話の中に具
 体的な評価の観点やよ
 い活動の例を示し、客
 観的に評価できるよ
 うにする。

8 おわりのことば

めあてを意識した意見やよい話し方な
 どを賞賛し、自信をもたせること
 で、話し合いに対する充実感を味
 わせる。

5 成果と課題

(1) 学校行事や学級活動における集団活動の工夫

[成果]

- ・議題を子供たちから出させることによって、自分たちの生活について話し合うという意識が生まれ、話し合いに対する意欲を高めることができた。
- ・話し合いのめあて（意見の内容）を短いフレーズにして常に意識させることによって、論点をはっきりさせた話し合いを行うことができた。
- ・共通の目標に向かって話し合いを進めることで、集団としての一体感を高めることができた。
- ・事前に同様の形式で話し合い活動を行い、授業時にその活動を想起させることで、積み重ねによる成長が見られた。

[課題]

- ・議題や提案理由、話し合いのめあての言葉は、慎重に精選しなければならない。議題、提案理由、話し合いのめあての整合性を図り、活動内容がねらいからかけ離れないように気を付けなければならない。
- ・話し合い活動をどのように展開させるか、教師がどのようにかわるかという点について、複数の方策を考えながら、最も望ましい指導方法を考えていかなければならない。

(2) 指導体制・方法の工夫

[成果]

- ・話し合いを小集団で行わせることによって、多くの児童が発言する機会を得ることができ、活動に対する満足感が高まった。
- ・小集団の活動の中に教師が適宜入り、支援することによって、めあてに沿った円滑な話し合いを行うことができた。

[課題]

- ・ペア、小グループ、全体と話し合いの形態を発達段階に合わせて複合的に用いることが大切である。
- ・話し合いの中で適切な評価を与えて、賞賛することによって、個人のよさを全体のものへと広げることができる。
- ・話し合い活動は実践とのつながりを重視し、実際の体験を行った後に、評価を適切に行うことが大切である。

(3) 他領域との関連付けを図った工夫

[成果]

- ・他領域との関連を考えて単元を設定することで、関連する体験を積み重ねられ、子供たちの考え方に広がりをもたせることができた。

[課題]

- ・他領域との関連について、内容、技法、価値などがどのように関連するかを明確にしなければならない。

地域環境を生かした職場体験学習による「心の教育」の実践

(小学5年 総合的な学習の時間 単元名『WAKU WAKU WORK～ぼくらの夢をかなえ隊!～』)

留萌市立沖見小学校 西 條 直 志

1 はじめに

(1) 今日的な課題から

現代社会においては、新規学卒者のフリーター志向の広がりや就職3年以内の離職者の増大、ニートの増大などが重要な課題となっている。その背景には、社会が将来の予測のつかない不透明なものであり、夢や希望をもちづらくなっていることや、幼少期の直接体験の不足や異年齢者との交流の乏しさからくる子供の精神的・社会的自立の遅れといったことが要因であると考えられる。

そこで、現代の子供たちに、望ましい職業観や勤労観、職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し主体的に進路を選択する能力や態度を育てるというキャリア教育の必要性が重要視されてきている。小学校教育においても、人間の生き方や在り方を考え、将来に向かって夢をもち、積極的に生きる態度を育てることは、「生きる力」を養う上で必要であり、早急な課題であると考え、本単元を設定した。

(2) 職場体験の繰り返しの中で

本単元においては、地域の身近にある3つの施設（保育園、特別養護老人ホーム、児童センター）で、職場体験を行う。具体的な内容については、小学生という発達段階を考慮し、短時間での簡単なお手伝い程度の体験が適切であると考えた。「働く」ということに対して、「大変だ」「面倒くさい」といったマイナス的なイメージが先行している児童も少なくない。そこで、同じ施設に3度訪問し体験する単元を構成した。毎回反省と改善を行い、少しずつステップアップしていくことで「やりがい」や「楽しさ」を見だし、そこで働く人たちの願いや思いに気付くことで、働くことの「よさ」や「意義」を感じることができると考えた。また、体験後には発表会を行い、それぞれの仕事の共通点や違いを振り返ったり、それぞれの施設の職員の方をゲストティーチャー（または手紙）として招き、一言コメントを頂いたりする。これらを通して、新たなプラスイメージの職業観・勤労観を育成し、夢への希望を再確認することができると考えた。

(3) 人との豊かなかかわりから

また、職場体験を行うことで、そこで働く職員や幼児、高齢者など様々な人々とのかかわりが予想される。核家族化や情報機器等の発達により、人と人との関係が希薄になり、コミュニケーション能力の不足や、人間関係作りの苦手な子供が増えている現代において、人との温かな交流を通して、豊かな心を育て、自己の生き方を見付け出すことは、重要であると考えた。本研究の副主題でもある「豊かにかかわる力を養う」こととも一致し、主題究明の一助となると考え、本単元を設定した。

2 研究内容とのかかわり

未来を拓く力を育成する「心の教育」の実践的研究

～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～

【視点 総合的な学習の時間の指導に関して】

本研究において、総合的な学習の時間の仮説は

総合的な学習の時間において、子供の実態に応じ、地域や学校環境の特色を生かしながら学習活動を行うことで、自己を実現し、未来を切り拓く実践力をはぐくむことができる。

となっている。

本研究では「心の教育」を推進していく上で、道徳においては、「自己理解を深め、主体的によりよく生きようとする気持ち」を育て、特別活動においては、「個性を生かしつつ、他者と支え合い生きようとする気持ち」を育てることが重要であると捉えている。

さらに、総合的な学習の時間においては、自然や地域社会など広範囲での活動を通して、「理想の実現に向けての実践力」をはぐくむことをねらいとしている。本単元においては、直接的に自分の夢を見据えた後に、「職業体験学習」を地域施設で行う。働くことのよさややりがいを体験的に学ぶことで、肯定的な勤労観・職業観を獲得し、夢に向けての明日からの希望や自己実現への実践意欲につなげていくことができると考えた。

(1) 地域環境を生かした体験活動の工夫

本単元では、本校から徒歩で通うことのできる地域の施設への職場体験を行う。

沖見保育園は、徒歩10分の場所にあり、0歳児～5歳児までの幼児102名が在籍する職員数16名の保育園で、本学級の多くの児童が卒園してきた保育園である。午前中の児童の自由遊びの中に参加し、保育園児との交流を行うことで、保育士の仕事の楽しさや苦勞、職員の願いや気を付けていることに、実体験を通して気付くことができると考えた。さらに、5年前の自分の姿を思い返したり、重ね合わせたりすることで、自己の成長にも目を向けることを期待したい。

沖見児童センターは、徒歩15分の場所にあり、親子広場やわんぱく広場といった事業を展開している。留守家庭児童会の機能を有し、本校の低学年児童も学校帰りに活用している施設である。また、放課後に遊びに出かけ、一輪車等で遊んだり、センター祭りに出かけたりと、なじみが深い。しかし、普段あまり利用していない午前中の時間帯の様子について知っている児童は少ない。自分たちの知らないところでの職員の仕事や苦勞について感じ取り、働くことについての新たな考え方をもちたいと考えた。

特別養護老人ホーム「萌寿園」は、徒歩20分の場所にあり、デイサービスセンター、在宅介護支援サービスの施設も併設し、50名ほどの高齢者が入居している。昨年度の総合的な学習の時間において交流させていただいた施設である。しかし、それはお年寄りの方との交流をメインとした福祉に関する学習であり、職員の仕事内容については深

く学んでいない。今回の交流では、気付いていなかった職員の様々な仕事に目を向けさせ、その大変さや楽しさ、やりがいに気付かせていきたい。

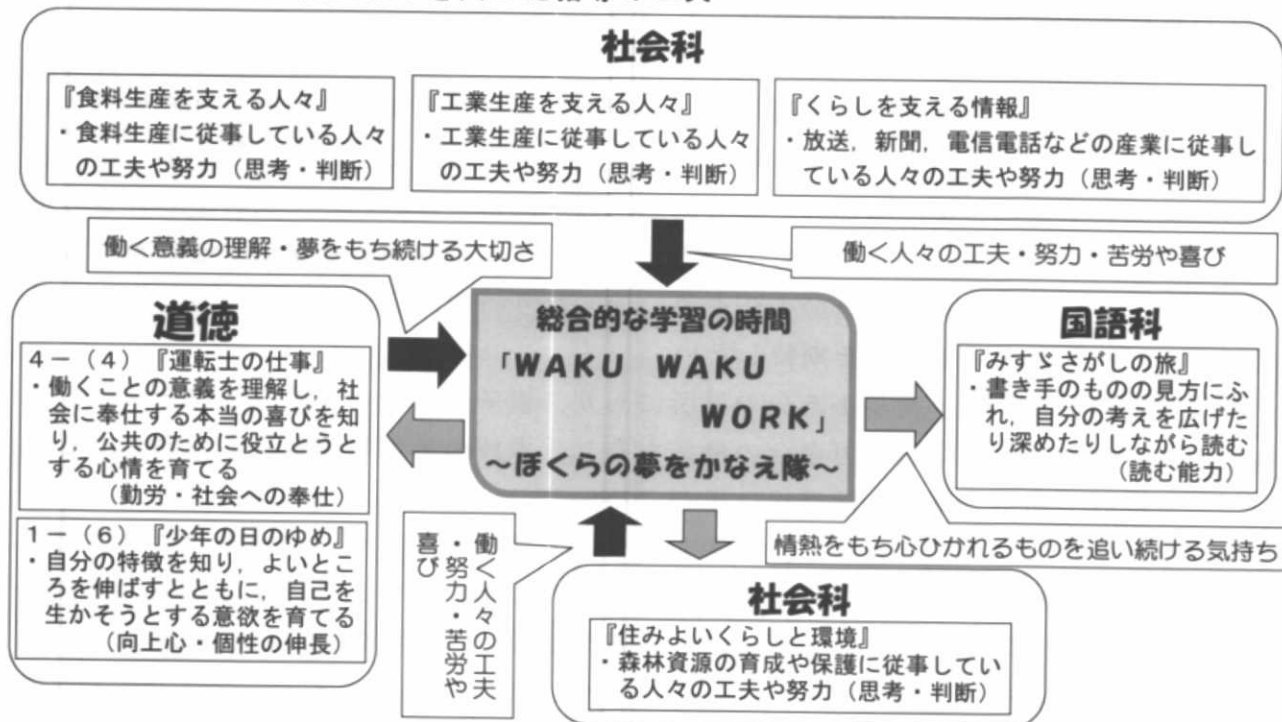
体験は、同じ児童が同じ施設に繰り返し3度訪問することを重要視した。回数を重ねることで、児童の中に改善や工夫をする気持ちが芽生え、それがやりがいや楽しさにつながると考えたからである。地域の3つの施設での職場体験活動を繰り返すことにより、各自が働くことを具体的にイメージ化することで、将来の夢を身近に感じ、未来を拓く力を育成できると考えた。

(2) 指導体制・方法の工夫

本単元は、児童の希望する施設へのグループ訪問となる。そのため、担任1人では、個の活動を細かく見取り、支援することが不可能である。そこで、2組の担任教諭と教務担当教諭に職場訪問の際には、引率をお願いした。体験後にはそれぞれの活動の様子を交流し合うことで、それまでの活動を適切に評価し、次の活動へ結び付けるための支援を行うことができると考えた。また、発表会においては、ゲストティーチャーとして各施設の職員を招き、子供たちの活動への賞賛や励まし、自分の働くことへの思いを伝えていただく。直接目の前で熱く語られることで、充実感や満足感を得ることができ、新たなプラスイメージの勤労観が形成されたと考えた。

単元の導入と終末では、児童各自の夢に目を向けさせる場面を設定した。これにより、職場体験を通して得たこと、気持ちや考えの変化について各自が明確に自覚し、さらに将来の夢の実現に向けて希望をもち、より積極的に今を生きる姿勢を身に付けさせたい。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫



「働く」ということに関して、第5学年での関連領域は、上記のように考えられる。既習事項は場合に応じて想起を促したり、未習事項は関連付けながら指導したりすることで、児童の思考が連続し、幅広い面から児童の勤労観や職業観を育成できると考えた。

3 単元の目標

(1) 主体的・創造的態度

職場体験学習を繰り返す中で、工夫しながら積極的に活動に取り組もうとする。

(2) 問題を解決する力

職場体験での自分の課題を見付け出し、工夫して計画を立てた上で活動できる。

(3) 学び方・考え方

職場体験を通しての意見や考えを発表し合ったり、話し合ったりすることができる。

(4) 自己の生き方

職場体験を通して、肯定的な新たな職業観や勤労観をもち、自己の生き方を考えることができる。

4 児童の実態

(1) 学習全般に関して

明るく活発な児童が多い。どの教科においても真剣な態度で取り組むことができ、特に体験的な学習を好む傾向がある。しかし、一部の児童においては、集中力が持続できなかったり、基礎的な学力が身に付いていない面も見られるため、個別での支援を常に心がけている。また、学習用具の忘れ物が多く、グループ活動でははじめを欠いた会話が見られる。発表態度は消極的であり、聞き手を意識した発表が苦手な児童が多い。

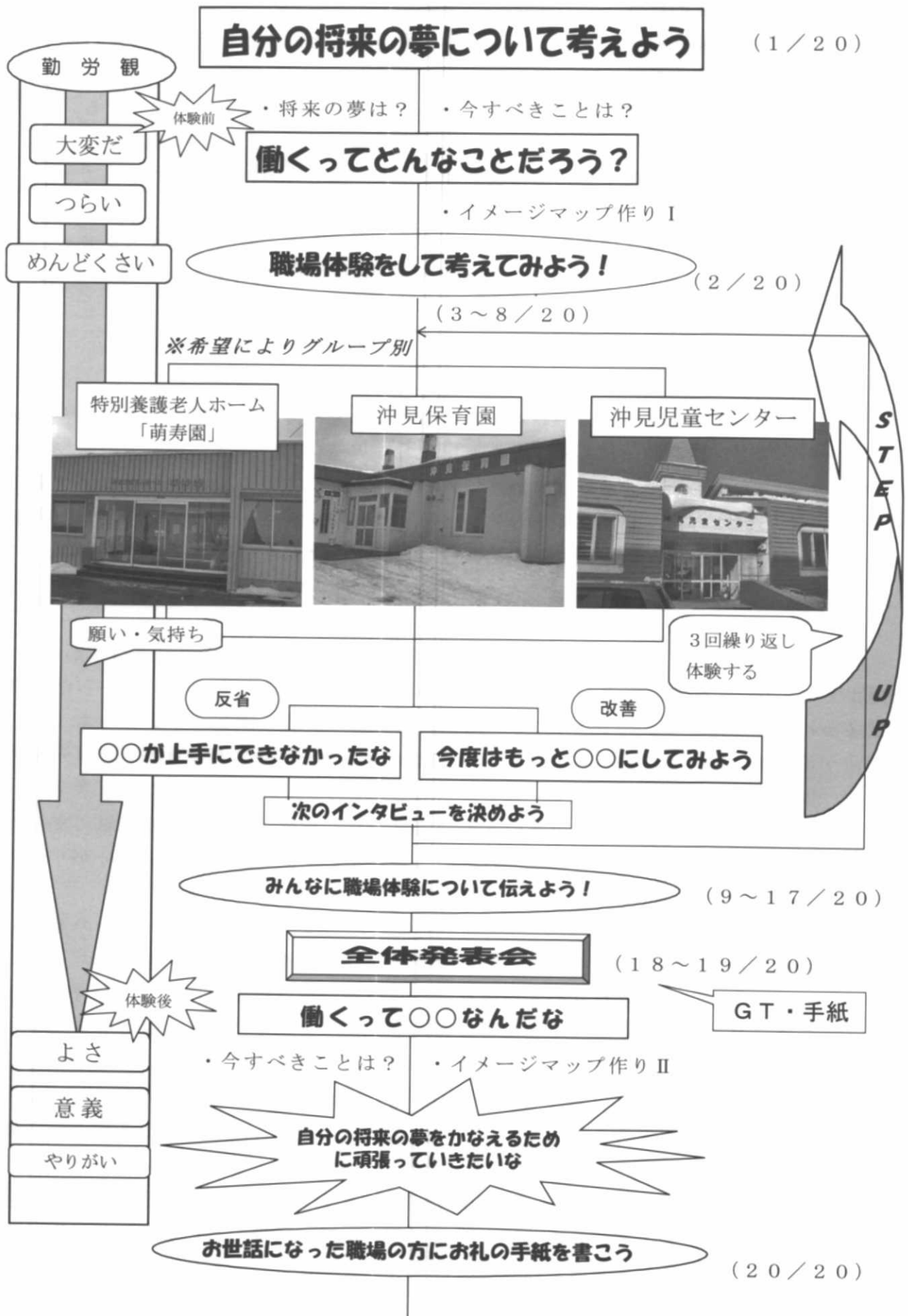
(2) 総合的な学習の時間に関して

年度当初に行ったアンケートの結果では、総合的な学習の時間を好む児童が多かった。理由としては、「自分の好きなことを調べられる」「パソコンを使える」といった意見が多かった。児童のイメージとして、「総合的な学習の時間の調査＝インターネット」という意識が強いように思われたため、今年度は特に体験的な学習を重視した単元を構成し、体験から学ぶことのよさや、人とかかわることのよさに触れさせたいと考えた。また、まとめや発表では、得た情報の丸写しも見られ、理解不足のまま模造紙にまとめ発表しているだけの場面も見られた。自分の言葉を使い、聞き手を意識した分かりやすい表現を心がけるよう指導を展開してきた。

前単元「ぼくらの森を守り隊！」(30時間扱い)では、森づくりセンターの協力を得た森林教室をきっかけとして、第1次の学習では「森に親しむ活動」を行った。葉や枝を使った実験や工作、木登りや名前調べ、森林の役割調べ等の後に発表会を行い、自分たちの森に対する関心や興味を高めることができた。ここで、モアイ像で有名なイースター島の例を意図的に取り上げ、森林伐採が原因で国が滅びてしまったことを教え、今の地球も同じようになるのではないかとの課題意識から、第2次の学習として「森林破壊の原因を探り、できることを考えよう」の活動を始めた。地球温暖化、酸性雨、森林伐採、焼き畑農業などについて調査し、自分たちもできることに取り組もうとする態度を養うことができた。また、体験活動における子供の意欲を再確認することができた。

そこで本単元においても、職場体験を設定することで、子供が意欲的に取り組み、活動を自分事として捉え、より深くねらいに迫ることができると考えた。

5 単元構成図 (全20時間)




6 活動計画（全20時間）

段階	内容・場	児童の主な活動	支援と評価
WAKU WAKU WORK～ぼくらの夢をかなえ隊！～			
課題把握	1 自分の将来の夢について考えよう（2） 【学校】	○自分の将来の夢について考えよう。 ・なりたい職業ベスト3は？ ・そのために今何をしたらいいかな？ ・働くなってどんなことかな？ ・体験をしてみたら分かるかも・・・。	☆自分の夢について、積極的に考え、自分の意見を述べるができる。 （学び・考え） ・体験への意欲化を図る。
お仕事を体験して、働くことを考えよう！			
調査・追究	2 お仕事体験に挑戦しよう（6） 【地域施設】 ・保育園 ・特別養護老人センター ・児童センター 【学校】	○お仕事体験に挑戦しよう。 ・インタビューして聞いてみよう。 第1回目 ・思ったよりも大変だ。 ・難しいな。 ・うまくできなかつたよ。 ・次はこんなふうにやってみよう。 第2回目 ・少し慣れてきたな。 ・だんだん楽しくなってきたよ。 ・1回目よりもよくできた。 ・次はもっとこんなふうにしよう。 第3回目 ・だいぶ上手になったよ。 ・このお仕事も楽しいな。 ・働くことが少し分かった。	☆職場体験について、積極的に取り組もうとしている。（主・創） ☆反省・改善点を次の体験に生かそうとしている。（問解） ・インタビューする内容を毎回吟味し、働く職員の気持ちに迫る。
表現	3 お仕事体験を友達に伝えよう（9）	○他のグループに自分たちのお仕事体験で学んだことを伝えよう。 ・この仕事の楽しさや苦勞を伝えたい。 ・他のグループの様子も知りたいな。 ・分かりやすくまとめて発表しよう。	☆体験を振り返り工夫してまとめることができる。（問解） ・段階を追ったまとめの方法を促す。
整理・深化	4 活動を振り返り、考えよう（2） 〈本時 2/2〉	○お仕事体験発表会Ⅰ・Ⅱをしよう。 ・働かっていうことは、○○なことかもしれないな。 働かって○○なことなんだ！ ・自分の将来の夢についてももう一度考えてみると、今すべきことは何かな。 ・これからも頑張りたいな。	☆自分の意見や考えを発表し、話し合うことができる。（学び・考え） ・GTのアドバイス。 ☆新たな自分なりの勤勞観をもつことができる。（自己）
	5 お世話になった方へ手紙を書こう（1）	○お世話になった施設の方へお礼の手紙を書こう。 ・いろいろなことが分かった。 ・また行ってみたい。	☆自分の気持ちや考えを的確に相手に伝えることができる。（学び・考え）

7 本時の実際

- ・職場体験を通し感じた自分の意見や考えを発表し、話し合うことができる。(学び方・考え方)
- ・職場体験を振り返り、自分の将来の夢についてもう一度見直すことで、体験前とは異なる新たな自分なりの肯定的な勤労観・職業観をもつことができる。(記の生きか)

主な学習活動	児童の活動	支援・評価
<p>◇お仕事体験発表会Ⅱをしよう</p>  	<p>お仕事体験について発表しようⅡ</p> <p>沖見保育園グループ(7人)</p> <p>小さい子と遊ぶのは大変でした。</p> <p>これは雪玉を作って遊んでいる写真です</p> <p>○全員で意見交流を行う。</p> <p>質問 一番大変だったことは何ですか？</p> <p>自分の体験との比較</p> <p>同じ小さい子だけど、私たちとは遊び方が違うと思いました。(児童センターグループ)</p>	<p>支援・評価</p> <p>・円滑な発表となるよう、事前にリハーサルを行った。また、掲示物もパネルにセッティングしておく。</p>  <p>☆自分の意見や考えを発表しているか(学び方・考え方)</p> <p>・前時の発表会(児童センター、特別養護老人ホーム)の想起を促す。</p>
<p>◇施設の方から一言コメントを頂こう</p>  <p>遊びに来る時とは違うお兄さん、お姉さんの顔でした。</p>  <p>児童センター 戸田先生</p>  <p>萌寿園 福岡さん</p>	<p>○G Tのコメントを聞く。</p> <p>保育士の仕事</p> <p>働くことへの思い</p> <p>みんなに伝えたいこと</p> <p>今みんなができること</p> <p>保育園 又村先生</p> <p>3人のG Tの話や児童の発表内容から、働くことのよさについてまとめる</p>	<p>・G Tによる他者評価で、充実感・成就感を得るとともに、働くことのイメージを広げる。</p> <p>・よさややりがいに着目できるように、板書にまとめる。</p> <p>お年寄りといたわる気持ちと大切に。</p> <p>素直で優しい心と大切に</p>

◇「働く」ことについてもう一度考えよう

- ・楽しい
- ・自分のため
- ・つかれる
- ・めんどくさい
- ・遊ぶため
- ・給料のため

変容

- ・楽しい
- ・いろんなことが分かる
- ・わくわくする
- ・自分のためでも人のためでもある
- ・大変だけど楽しい
- ・楽しいけど大変
- ・ご飯を食べていくため

◇自分の夢や今すべきことを見直そう

保育士がベスト1
に変わったかも…



今すべきことは？

勉強！

体力をつける！

返事をきちんとする



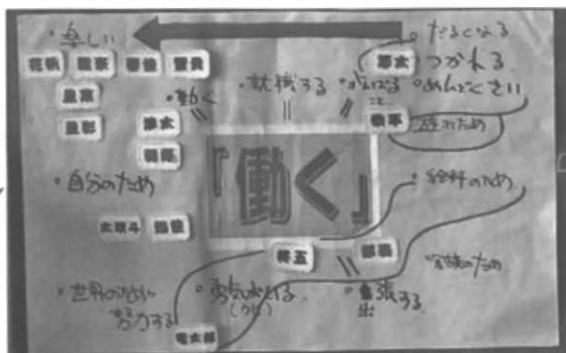
家のお手伝い

あいさつ！

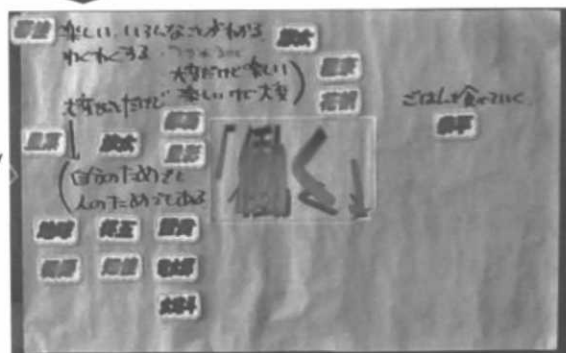
◇お礼の方法を考えよう

- 明日からの生活に希望や意欲をもつ
- お世話になった施設の方へのお礼の仕方を考える

働くって??



- ネームプレートで新たな自分の考えを明確にする。



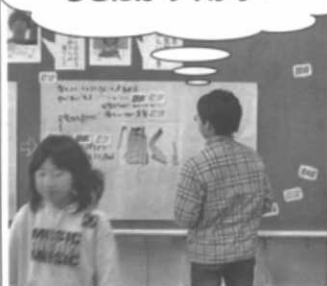
- 将来の夢ベスト3を想起する。

一番最初に将来の夢ベスト3を書いたね！



・単元導入時のイメージ図を活用し、変容を再確認する。

どこにはろうかな？



・プラスイメージ（大変だけど楽しい等）が増えていることに着目させたい。

☆新たな労働観・職業観をもつことができたか（自己の生き方）



- 自分の体験やまとめ、職員へのインタビューの答え、GTのお話を参考にしよう促す。

- 単元導入時に行った「今すべきこと」に新たに付け足すことで、自己の変容に気付かせたい。

- 次時への意欲化

8 成果と課題

(1) 地域環境を生かした体験活動の工夫

[成果]

- ・反省と改善を繰り返す3度の職場体験は、仕事のよい面と大変な面の両方を見ることができ、肯定的な職業観を形成するために効果的であった。
- ・今回取り上げた3つの施設は、子供たちにとって身近であったため、興味をもって意欲的に取り組むことができた。また、必然的に園児や高齢者の方とかかわりをもつことができ、豊かなかかわり合いの中から直接学んだことも多く見られた。

[課題]

- ・活動のステップアップを更に図り、その自覚を促すためには、きめ細かく計画的な一人一人への支援が必要である。

(2) 指導体制・方法の工夫

[成果]

- ・それぞれの施設への引率者との連携が円滑に行われたため、担任が次時の支援に生かすことができた。
- ・ゲストティーチャーの講話により、肯定的な職業観・勤労観を子供がもつことができ、効果的な指導となった。
- ・毎時間の活動内容や反省、改善点をワークシートに記入し、時系列でファイルすることで、自分の変容に気付かせることができる。

[課題]

- ・ゲストティーチャーを活用する場合には、その意味合いや何を子供につかませるかを、事前にしっかりと吟味しておく必要がある。また、単元の導入で活用し、いろいろと質問をさせる展開も考えられる。
- ・ゲストティーチャーの講話を聞く場合には、あらかじめ話を聞く観点を与えておくとよい。
- ・複数のゲストティーチャーを活用する場合は、それぞれの講話の共通点を取り上げ、深く考えさせる展開も考えられる。

(3) 他領域との関連付けを図った指導の工夫

[成果]

- ・「働く」ということに関する関連や価値項目を指導案上に明確に位置付け、想起を促したり、同時期に学習を進めたりすることで、子供の思考の幅をより広げることができた。

[課題]

- ・今後は、総合的な学習の時間における活動のねらいについて、各段階においての他領域との関連（必要な能力や技能等）も考慮していく必要がある。

IV 研究の成果と課題



視点1 道徳の時間の指導に関して

視点2 特別活動の指導に関して

視点3 総合的な学習の時間の指導に関して

研究の成果と課題について

今年度は、「未来を拓く力を育成する『心の教育』の実践的研究～自分を見つめ他と豊かにかかわる力を養うために～」の研究主題を掲げ、新たな研究推進を開始した。「道德の時間」「特別活動」「総合的な学習の時間」といった異なる領域の研究を並行して行う中で、それぞれの指導内容や方法を追究し、またそれらの効果的な連携の在り方についても、成果と課題を明らかにすべく設定された研究主題である。

1年次目である今年度は、道德の時間の指導に関しては「心に響く資料の開発・工夫」を、特別活動の指導に関しては「学校行事や学級活動における集団活動の工夫」を、総合的な学習の時間の指導に関しては「地域環境を生かした体験活動の工夫」を主たる研究項目として、理論研修と研究員による検証授業を行った。また、研究協力校・研究協力員をはじめ管内教育関係者の多大なる協力の下実施した、「道德教育に関するアンケート」についても研究推進の貴重な糧とすることができ、以下のような成果と課題が明らかになった。

視点1 道德の時間の指導に関して

今年度の重点：深く心に響き、自己を振り返る中で、道德的価値をはぐくむ資料の開発・工夫

成果

子供の実態に応じて、授業のねらいとする道德的価値を定め、その育成に効果的と考えられる資料を活用することができた。また、資料の内容や提示の段階・方法についても、発達段階を考慮し適切に活用された。大変な困難を乗り越えた人物が、子供たちと同じ人間としての弱さをもっていたことを伝えることで、その人物を特別な存在として捉えず、自分と同じ一人の人間であることを理解させることができた。同時に、子供たちに自らの経験を振り返らせたり、同じ状況に自分が立った場合を想像させたりすることで、真に課題に迫ることができ、考えに深まりが見られた。授業時、あるいは授業後の子供の様子や感想から、ねらいとする主たる道德的価値以外にも、様々な価値項目に関係する変容が見られ、優れた資料は豊かな心をはぐくむ上で、大きな力をもつことを確認できた。

課題

多くの資料は、様々な道德的価値を包含しているため、授業のねらいとする価値内容を明確にし、それに沿った授業展開・指導方法を吟味する必要がある。また、「道德の時間」の授業を、ねらいという観点から大きく分類することも効果的である。子供にとって未知の資料を活用し、関心・意欲を喚起する中で、道德的心情を高める授業や、子供が自己を振り返りながら、あるいは社会規範に照らし合わせながら深く思考する資料を活用し、課題を追究する中で、道德的判断力を養う授業など、様々な授業が存在する。それぞれの授業の性格を明らかにすることで、より効果的な資料を活用したり、より効果的な指導方法を実践したりすることが可能になると考えられる。その過程においては、相互補完する形で道德教育に関する子供に実態が明らかになるため、他領域との効果的な連携を図るための材料ともなる。

視点2 特別活動の指導に関して

今年度の重点：個性を大切にしながら、集団の一員として生活できる実践的態度をはくむ集団活動の工夫

成果

話し合い活動における議題を、子供自身に考えさせ活用することで、集団への所属感や授業への意欲を高めることができた。また、発達段階に十分配慮し、課題提示や指導方法などを工夫することで、課題への積極的取組を促すことができた。同時に、授業における観察を丁寧に行い、適切に評価することで、子供自身が互いの個性を大切に、自他を肯定する意識をもつことができた。話し合い活動によって導き出された結論が、実際に子供たちの活動に反映される授業を構成したことで、子供に達成感がもたらされた。また、実際の体験後に、導き出した結論の成果について子供たち自身が再度話し合いを行うことも可能であり、さらに効果的な指導を行うことができる。このようにして子供たちが得た成果や課題を他領域と関連付け、道徳的価値を養うよう心がけることも大切と考えられる。

課題

集団活動において、子供たちに話し合いをさせる場合には、議題や形態を発達段階に応じ慎重に精選する必要がある。特に小学校の低学年においては、議題の表現を簡潔に分かりやすく設定したり、話し合いの過程で幾度もめあてに立ち返らせ意識させることも重要である。

指導体制については、教師のかかわりが話し合いの深まりに大きな影響を与えるため、複数指導体制の必要性なども検討する必要がある。話し合いの形態についても、ペアや小グループ、全体など、様々な手だてが考えられるため、場合によっては複合的に用いるなど、状況に応じて最も効果的な方法を吟味することが求められる。

視点3 総合的な学習の時間の指導に関して

今年度の重点：地域環境を生かした体験活動の工夫

成果

職場体験の学習においては、「心の教育」につながる体験学習の実施が期待できる施設に、協力を依頼することが重要である。今年度の実践において訪問先となった施設は、いずれも子供たちにとって身近な施設であったため意欲的な取組が見られた。また、これまでとは異なる「働く側」からの視点で活動することで、子供たちそれぞれの「勤労観」に変容が見られると同時に、「他とのかかわり」について考えを深める様子が見られた。発達段階によっては、接する機会の少ない施設を訪問先として設定することで、子供たちの視野を広げさせ、自らの将来について考える契機とする指導も考えられる。訪問回数や活動内容についても、子供の実態や活動のねらい、発達段階と照らし合わせ検討することが重要である。今年度の実践においては、施設を変えることなく3度訪問し、前回の課題を改善しながら活動できるよう支援したことで、子供たちは目的意識をもって活動することができた。ゲストティーチャーの講話や手紙も、「働く」ということについて多面的に考える契機となるもので、また具体物であるがゆえに説得力あふれ、充実した学習活動が展開された。

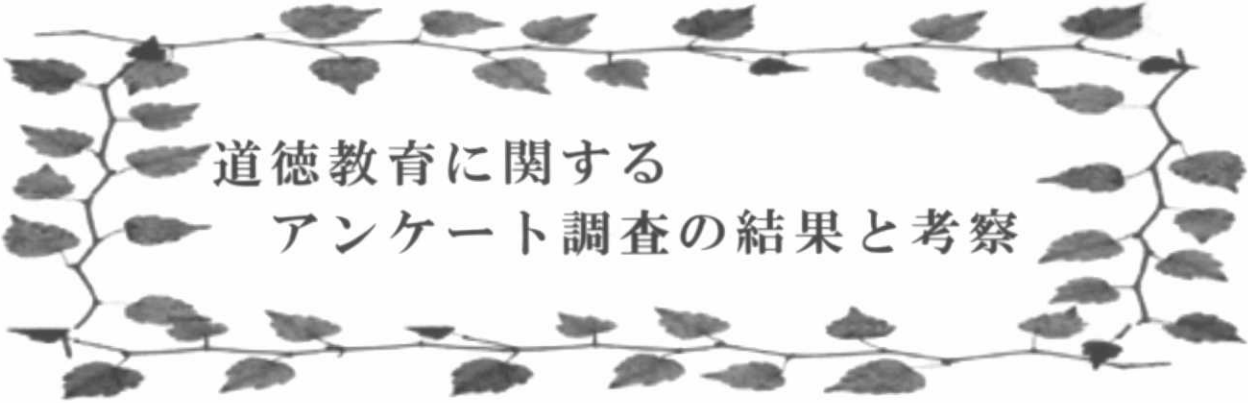
課題

職場体験の学習において、子供たちが異なる施設を訪問する場合、成果の交流によって更に学習を深めることも重要である。ゲストティーチャーの協力が得られる場合、講話や手紙の内容が活動のねらいに沿ったものになるよう依頼したり、授業における位置付けを工夫したりすることで、実際に訪問していない子供にとっても、意義深い学習を展開することが可能になる。

また、課題解決力や学習主体性、創造力など、総合的な学習の時間において身に付けさせるべき力を、指導計画の中で明確にし、各段階における他領域との関連性について考慮していく必要がある。

参考文献リスト

- ・学習指導要領（平成10年12月告示）
- ・釧路教育研究所 研究紀要 第57集，第58集，第59集
- ・十勝教育研究所 研究紀要 No.198，No.200
- ・石狩教育研究所 研究紀要 第185号
- ・後志教育研修センター 研究紀要 No.73
- ・「第15回 北海道生活科・総合的な学習教育研究大会 大会紀要」
- ・「平成16年度 研究紀要 苫前町立力昼小学校」
- ・「留萌管内生活科・総合的な学習研究会 第4回実践交流会 講演資料」
- ・「小学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省
- ・「小学校学習指導要領の展開」 宮川八岐編著 明治図書
- ・「中学校学習指導要領の展開 道徳編」 七條正典編著 明治図書
- ・「中学校学習指導要領の展開 特別活動編」 森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著 明治図書
- ・「中学校学習指導要領の展開 総合的学習編」 山極隆編著 明治図書
- ・「学級活動の年間始動計画と展開 小学校低学年」 宇留田敬一編 明治図書
- ・「学習活動の指導過程 小学校低学年」 成田國英編 明治図書
- ・「小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案」 児島邦宏・三村隆男編 明治図書
- ・「道徳と総合的学習で進める心の教育」 諸富祥彦・尾高正浩編著 明治図書
- ・「総合的な学習に活かす ポートフォリオがよくわかる本」 小田勝己 学事出版
- ・「中学校『総合的な学習の時間』研究の手引」 児島邦宏・佐野金吾編 明治図書
- ・「中学校 特別活動＋総合的学習の展開プラン集」 渡部邦雄編 明治図書
- ・「教育展望」2003.7・8
- ・「指導と評価」2006.5
- ・「特別活動研究」2006.3，2006.12



道徳教育に関する
アンケート調査の結果と考察



1 実施要項

2 配付及び回収について

3 結果と考察

1 実施要項

1 目的

平成18年度から取組が開始した新たな研究に関して、留萌管内小中学校の実情や教員の要望を把握した上で、研究推進のための価値ある資料として役立てる。

2 調査方法の概要

- (1) 留萌管内全小中学校の全教員を対象に調査を行う。
- (2) 勤務校種ごとに調査結果の集計を行い、比較分析することで発達段階に応じた相違点等を明らかにする。
- (3) 教職経験年数と調査結果を照らし合わせ、より詳細な実態把握に努める。

2 配付及び回収について

	配布数(枚)	回収数(枚)	回収率(%)
小学校	317	223	70
中学校	243	165	68

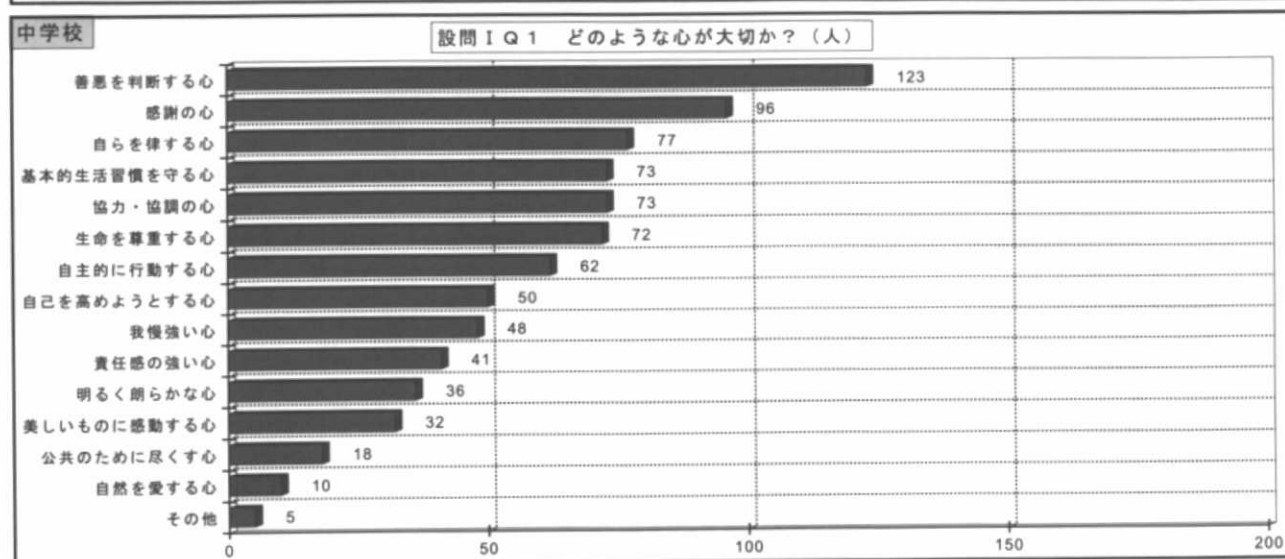
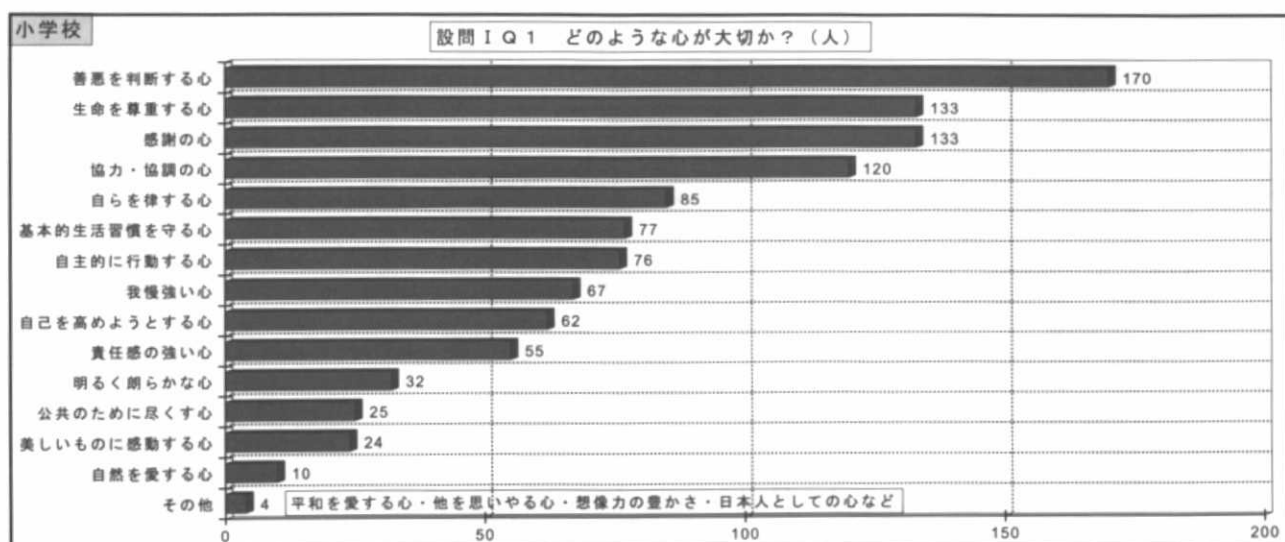
3 結果と考察

～ご協力いただいたアンケートの主な設問の集計結果と考察を、以下に記します。～

I 道徳性の育成について

Q1 あなたが実際に子供たちと接する中で、どのような心を育てることが大切だと感じていますか。大切だと感じる心について5つ選んで番号で記入してください。その他にある場合は()に記入してください。

- ①基本的な生活習慣を守ろうとする心 ②善悪を判断する心
③自主的に行動しようとする心 ④我慢強い心 ⑤責任感の強い心
⑥自らを律する心 ⑦明るく朗らかな心 ⑧協力・協調の心
⑨公共のために尽くす心 ⑩自己を高めようとする心 ⑪自然を愛する心
⑫生命を尊重する心 ⑬美しいものに感動する心 ⑭感謝の心
⑮その他()

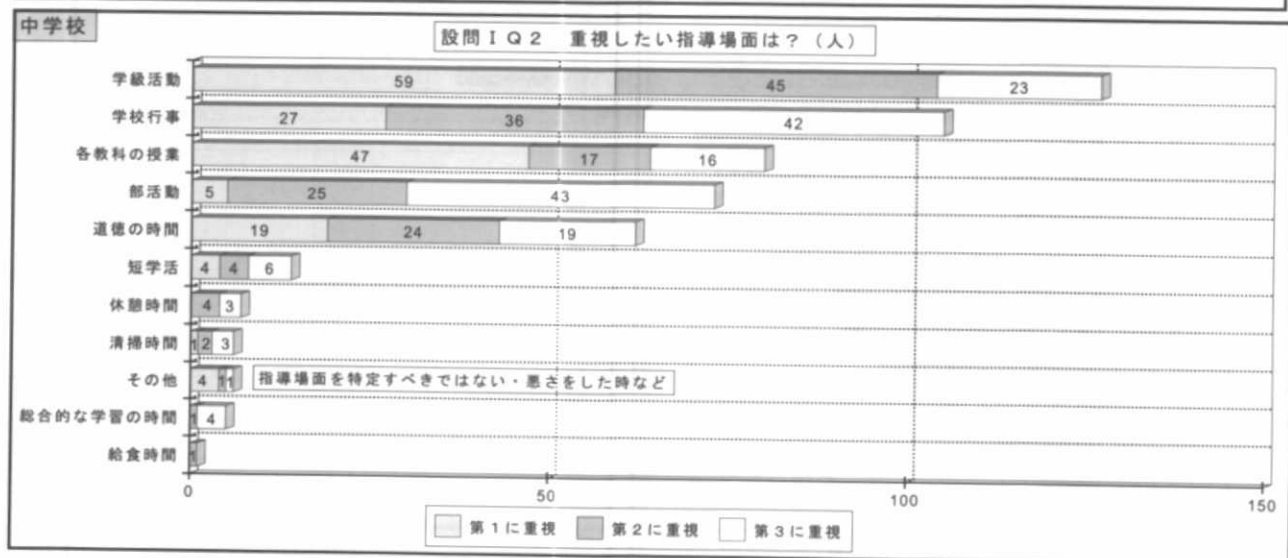
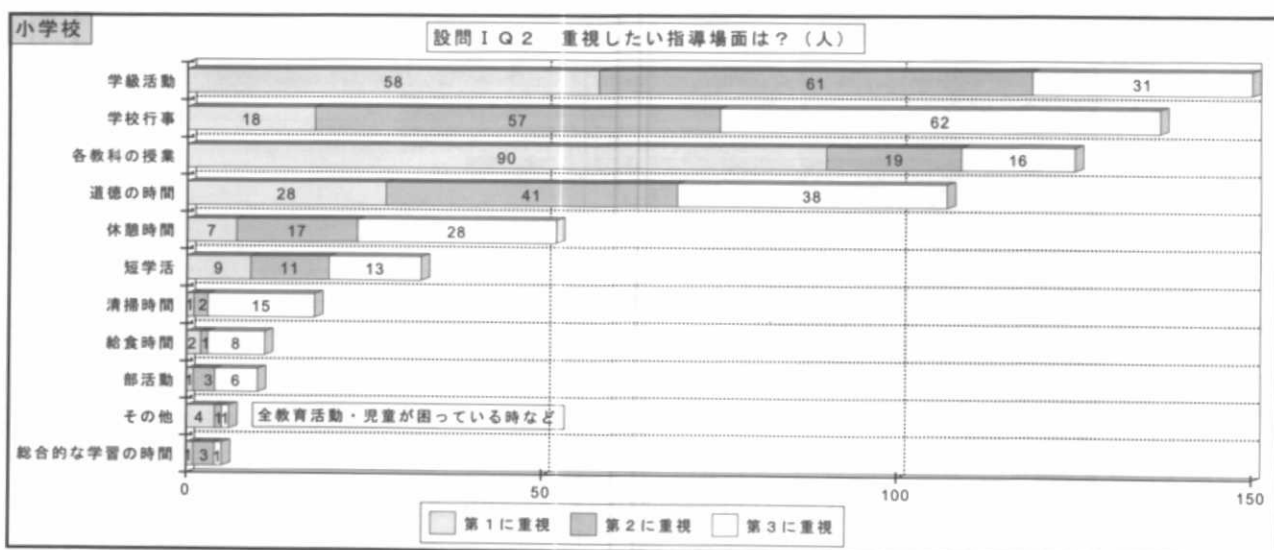


【考察】

小学校・中学校共に、最も回答が多かったのは「善悪を判断する心」で、それぞれ7割以上の教員が大切と考えている。「善悪を判断する心」が道徳的判断力の基礎と考える教員が多いことを示すと同時に、善悪の判断を適切に行えない子供が増えつつある現状をも反映していると考えられる。「生命を尊重する心」「感謝の心」「自らを律する心」との回答も多く、子供の実態の変化を感じ取ったり少年犯罪の低年齢化を危惧したりする教員の意識が映し出されているといえる。学校生活において、子供たちが自己を見つめ他と豊かにかかわる中で、“未来を拓く力”を身に付けられるよう支援していくことが求められている。

Q 2 学校教育において心の成長を促すために、特に重視したい指導場面はどのようなものですか。次の中から重視する順に3つ選んで番号を記入してください。その他にある場合には（ ）に記入してください。

- ①各教科の授業 ②学級活動 ③道徳の時間 ④学校行事 ⑤部活動
 ⑥休憩時間 ⑦給食時間 ⑧清掃時間 ⑨総合的な学習の時間 ⑩短学活
 ⑪その他（ ）



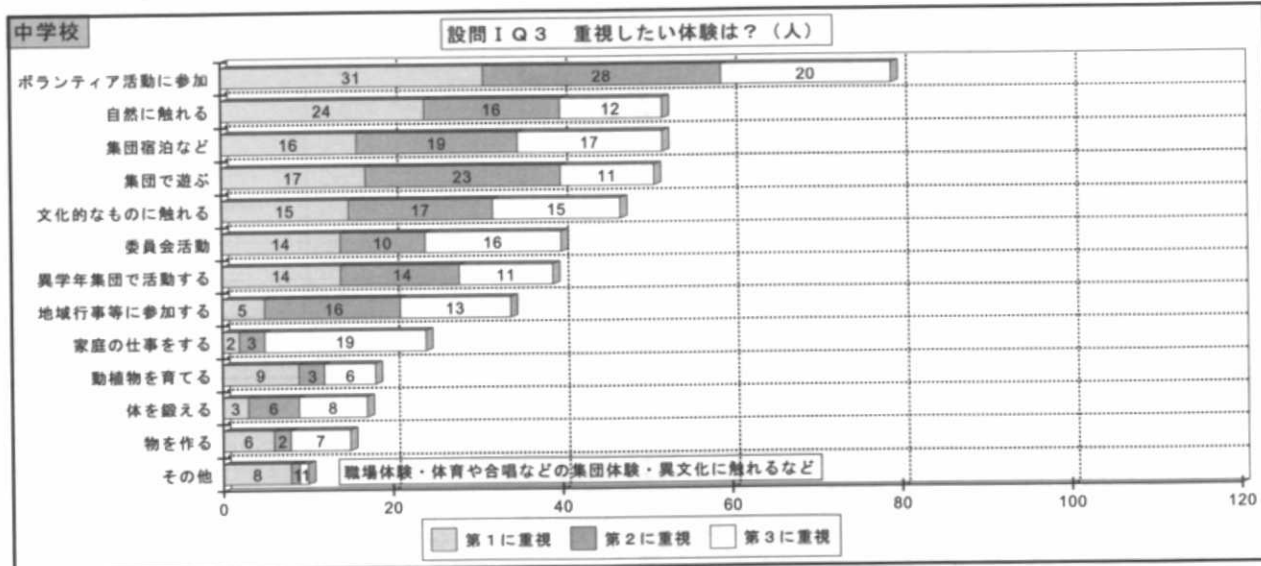
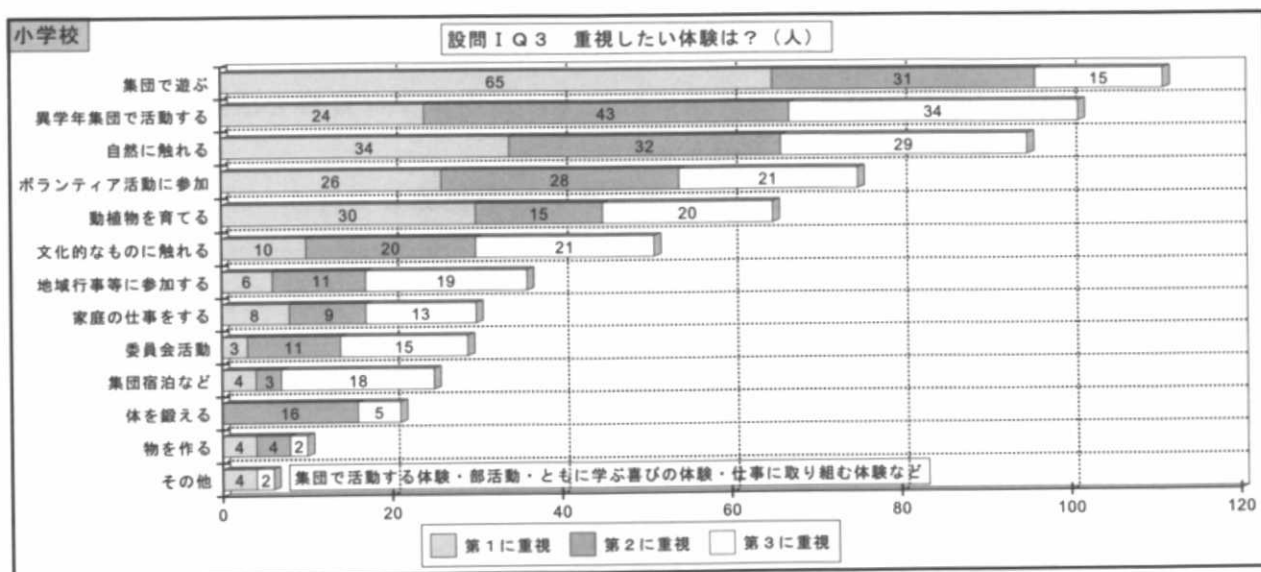
【考察】

第1～第3に重視する場面として回答された総数が最も多かったのは、小学校・中学校ともに「学級活動」である。豊かな心を育成するためには、級友と共に集団活動を行うことが重要であると考え、教員の多さを表している。小学校において、第1に重視する場面として最も回答が多かったのは「各教科の授業」である。教科の授業のほとんどを学級担任が指導するため、子供と最も多く接する場面であることが理由と考えられる。また、「学校行事」「休憩時間」との回答も多く、他と触れ合って活動する場面を重視する教員の意識が読み取れる。中学校においても、「学校行事」を重視するとの回答は多く、同時に「部活動」との回答も相当な数に上った。小学校同様、集団活動・体験的活動を重視する傾向がうかがえる。

一方、「道徳の時間」の回答総数は、小学校で4番目、中学校では5番目にとどまった。心の成長を促すためには、「道徳の時間」において自らを見つめることも大切であると考えられる。その意味では、「道徳の時間」を意義あるものにしていくよう研究を推進することが求められているといえる。

Q3 学校教育において、豊かな心を育成するために特に重視したい体験はどのようなものですか。次の中から重視する順に3つ選んで番号を記入してください。その他にある場合には（ ）に記入してください。

- ①動植物を育てる体験 ②物を作る体験 ③自然に触れる体験
 ④ボランティア活動に参加する体験 ⑤地域行事等に参加する体験
 ⑥文化的なものに触れる体験 ⑦集団で遊ぶ体験 ⑧体を鍛える体験
 ⑨異学年集団で活動する体験 ⑩集団宿泊などの体験
 ⑪家庭の仕事をする体験 ⑫児童会・生徒会などの委員会活動の体験
 ⑬その他（ ）



【考察】

小学校において、第1に重視したい活動として最も回答が多かったのは「集団で遊ぶ体験」であり、総数としても最も多い。次いで多いのは「異学年集団で活動する体験」であり、集団での触れ合いを重視するという意味では、設問IのQ2の「学級活動」の重視に通ずるものがある。また、「自然に触れる体験」「動植物を育てる体験」「ボランティア活動

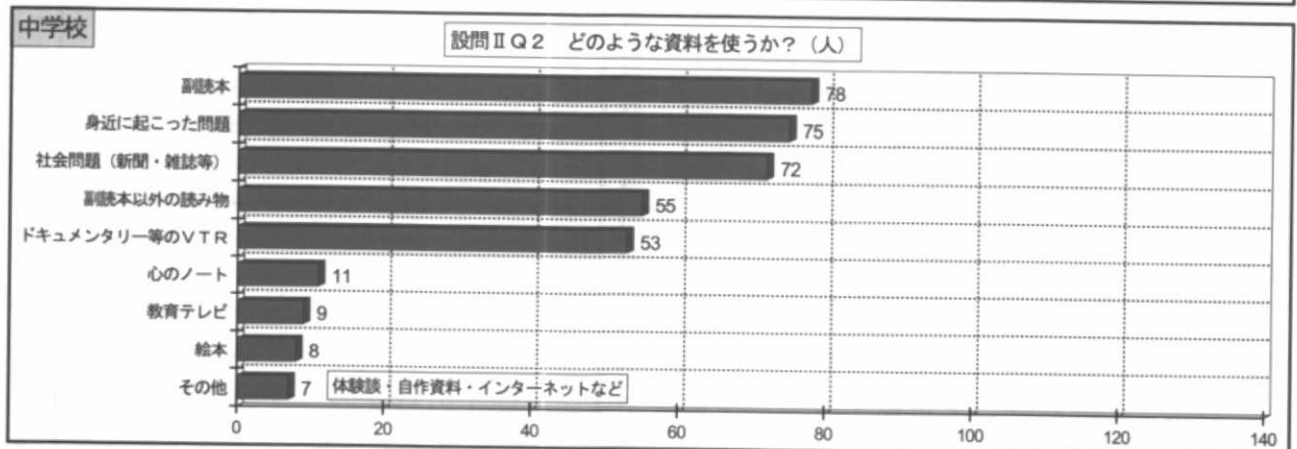
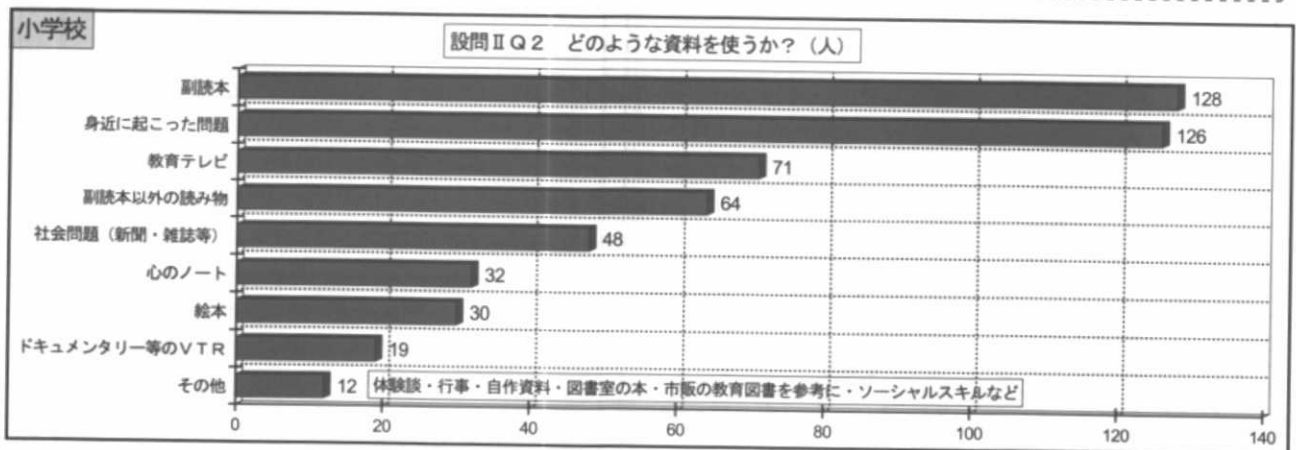
に参加する体験」も多く、広い意味で他とかかわる活動も重視されているといえる。中学校において、第1に重視したい活動として最も回答が多かったのは「ボランティア活動に参加する体験」であり、総数としても最も多い。また、「集団宿泊などの体験」を重視する声が多いなど、小学校とは異なる傾向が見られる。校種や学年に応じた発達段階や子供の実態を考慮し、体験活動を実践しようとする教員の意識が読み取れる。

回答の多かった「ボランティア活動に参加する体験」「自然に触れる体験」などの活動場面として、「総合的な学習の時間」が想起されるため、各領域の指導が補充・深化・統合し合えるような連携の在り方についても考えていく必要がある。

II 「道徳の時間」の実際の指導にかかわって

Q2 あなたは、「道徳の時間」の授業において、どのような資料を活用することが多いですか。番号でお答えください。(複数回答可)

- ①副読本を使って行う ②NHK教育テレビを視聴して行う
 ③副読本以外の読み物資料を使って行う
 ④ドキュメンタリーなどのVTRを使って行う ⑤絵本を使って行う
 ⑥実際に身近に起こった問題を取り上げて行う
 ⑦社会問題(新聞・雑誌等の活用)を取り上げて行う ⑧心のノート
 ⑨その他()

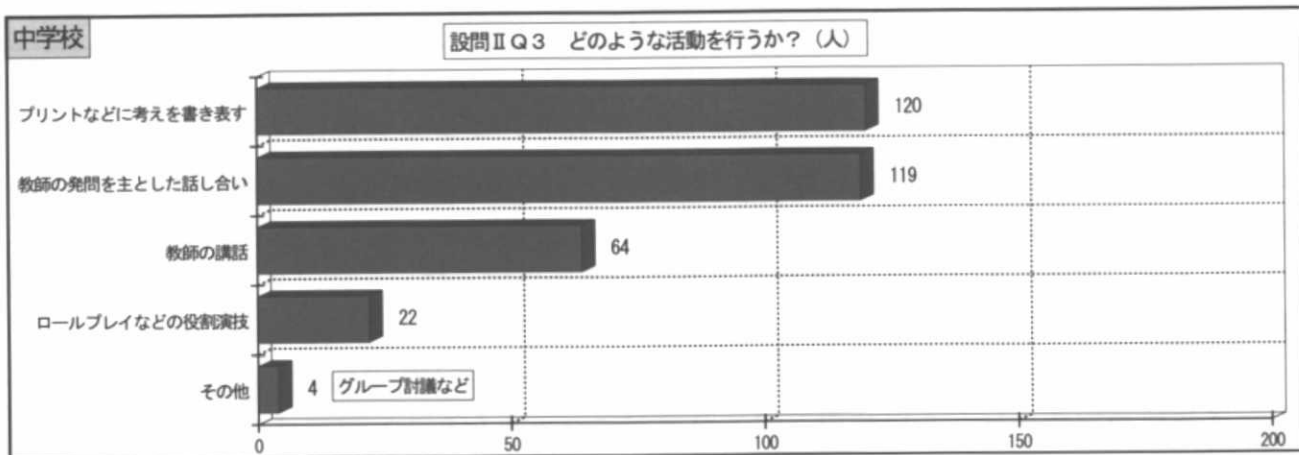
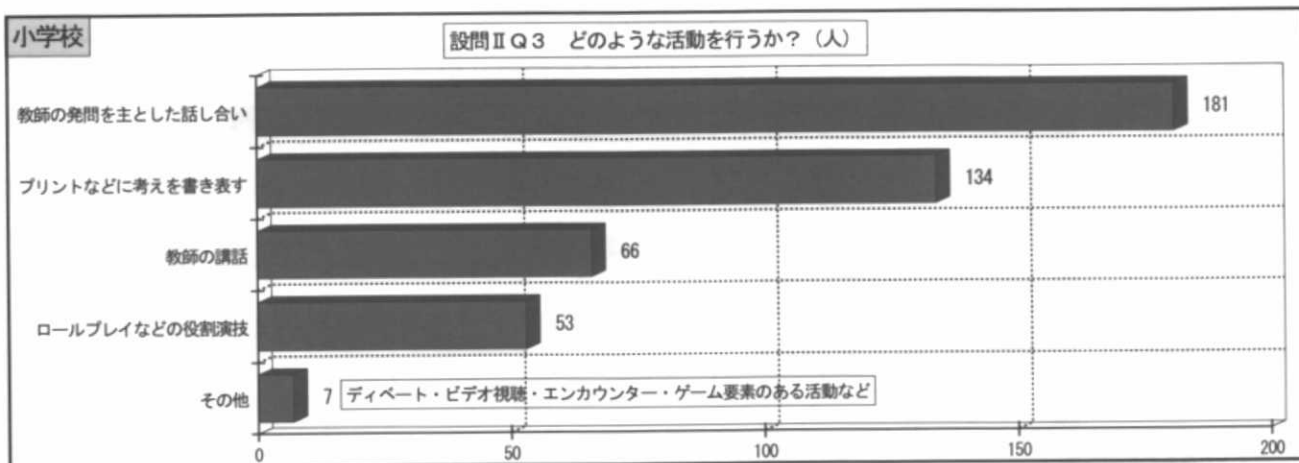


【考察】

小学校においては、「副読本」「身近に起こった問題」との回答が突出して多い。中学校では、それらに加え「社会問題」「ドキュメンタリー等のVTR」との回答も相当数見られる。これは、それぞれの発達段階に応じた資料の活用が行われていることを表していると考えられる。小学校では、児童が身近に感じられる副読本資料や実際に体験した出来事を題材として活用することで道徳性を育成し、中学校では、より広い視点から社会的な問題を題材とすることで、より大きな指導効果が期待されているといえる。その他、「副読本以外の読み物」「心のノート」「教育テレビ」「自作資料」など回答は多岐にわたり、今後さらに効果的な資料の開発・活用が求められていると考える。

Q3 あなたは、「道徳の時間」にどのような学習活動を行っていますか。番号でお答えください。(複数回答可)

- ①教師の発問を主とした話し合い
- ②ロールプレイなどの役割演技
- ③教師の講話
- ④児童生徒が、プリントなどに考えを書き表す
- ⑤その他()

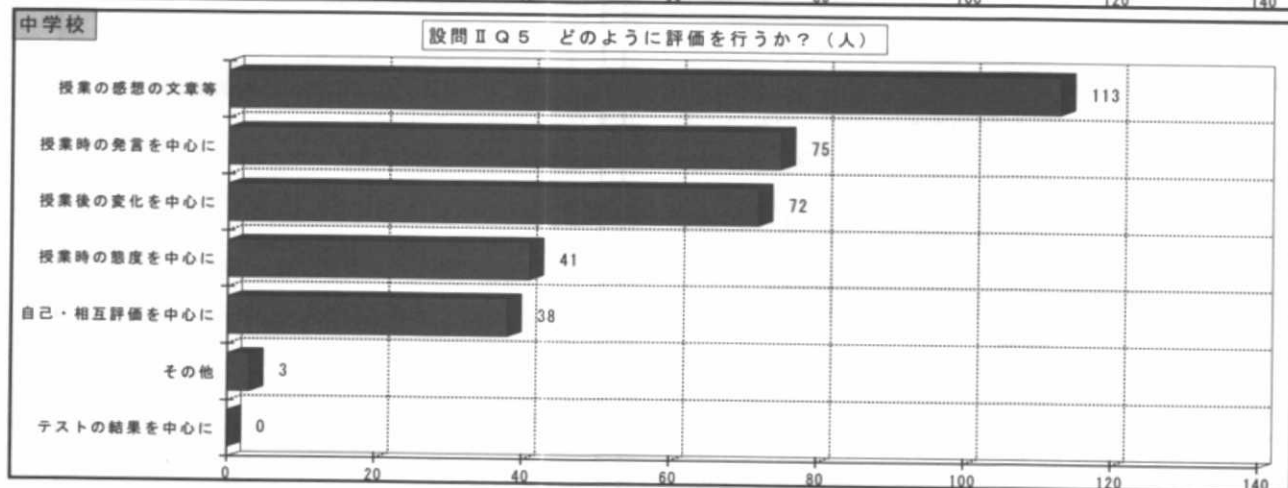
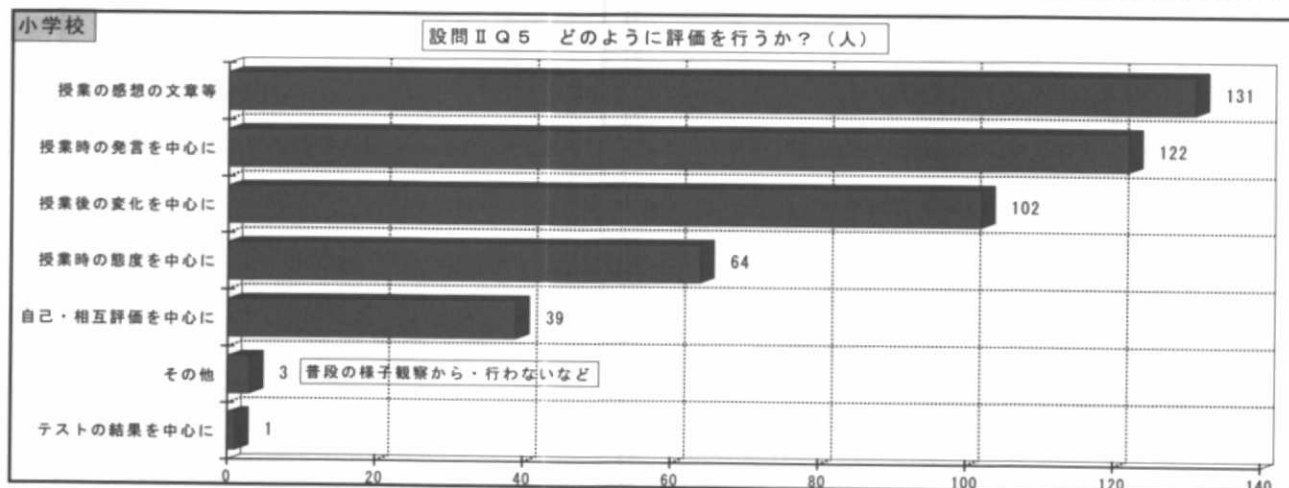


【考察】

小学校・中学校共に、「話し合い」と「考えを書き表す」との回答が高い割合を占めている。少数ながら「エンカウンター」「ディベート」「グループ討議」といった回答も見られ、今後授業のねらいや内容に応じた学習方法の工夫が必要であると考えられる。

Q 5 あなたは「道徳の時間」の評価をどのように行っていますか。番号でお答えください。 (複数回答可)

- ①授業時の発言を中心に ②授業時の態度を中心に
 ③授業の感想などの文章などを中心に ④授業後の行動や発言の変化を中心に
 ⑤自己評価・相互評価を参考にして ⑥テストを行いその結果を中心に
 ⑦その他()



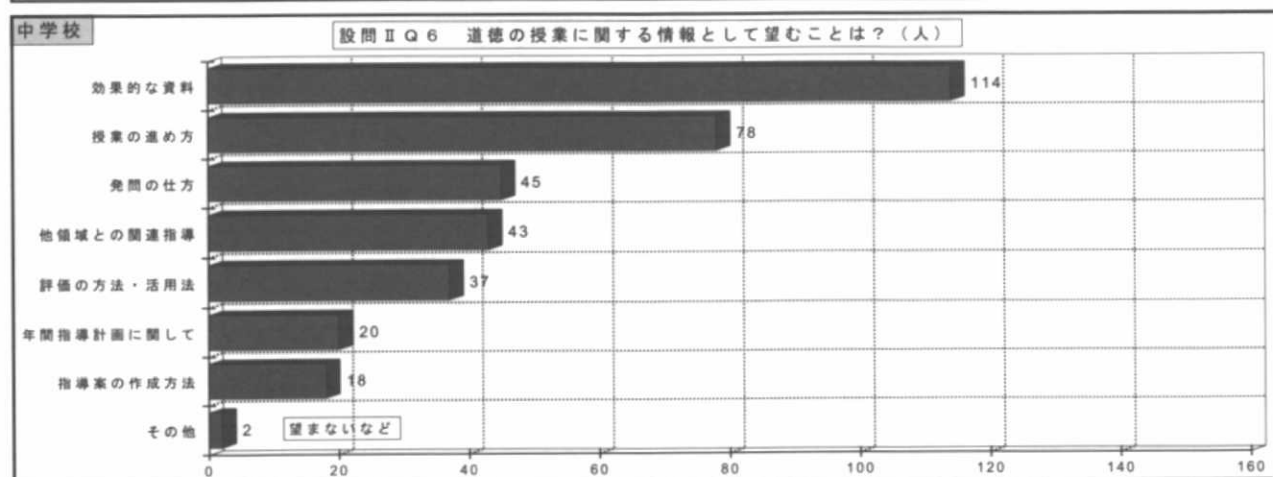
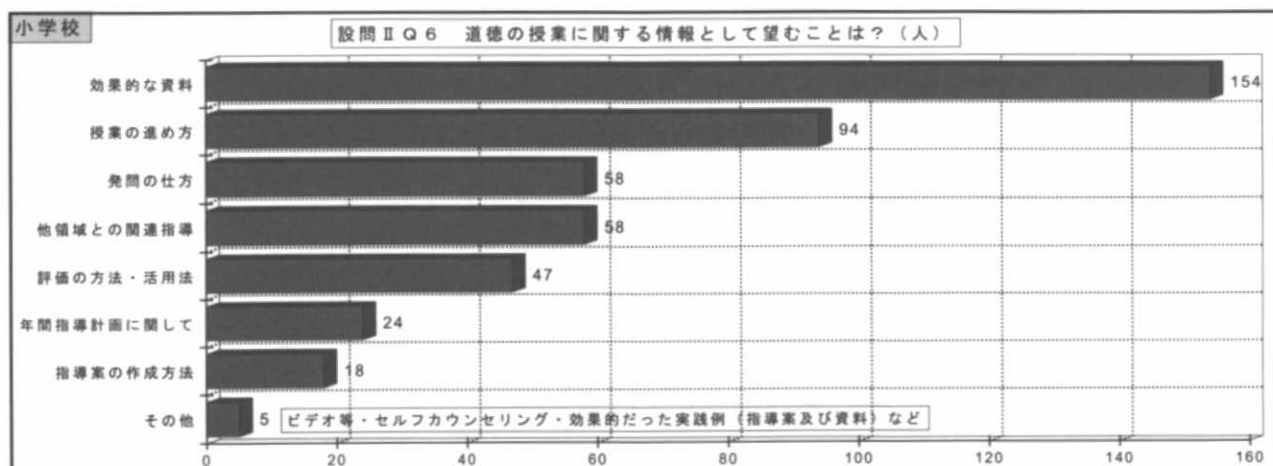
【考察】

全体的に複数回答が多く、様々な方法で児童・生徒の変容を見取ろうとする教員の姿勢が反映されたと考えられる。小学校・中学校共に、「授業の感想などの文章を中心に」との回答が最も多く、具体物によって児童・生徒の意識や考えを読み取ろうとする意識が目立つといえる。次いで多いのは、「授業時の発言や態度を中心に」との回答で、授業時の生徒観察を積極的に行う教員の多さが読み取れる。

一方で、「授業後の行動や発言の変化を中心に」との回答も約5割と、かなりの数に上った。道徳性の育成には、長い時間と様々な手だてが求められる。道徳性について、その深まりがいつどのような形で表出するか、あるいは児童・生徒の内部において目に見えない形で深まるかは、量りかねる部分が大い。そのため、日常的な観察や他領域との連携を図った指導を心がけ、あらゆる学校活動の場面で道徳性の育成・見取りを行うことが必要であると考えられる。

Q 6 道徳の授業に関する情報としてあなたはどのようなものを望みますか。番号でお答えください。 (複数回答可)

- ①年間指導計画に関すること ②指導案の作成方法 ③授業の進め方
 ④効果的な資料 ⑤発問の仕方 ⑥他領域との関連を図った指導
 ⑦評価の方法・活用法 ⑧その他()



【考察】

小学校・中学校共に、最も多い回答は「効果的な資料」であり、約7割の教員が情報を望んでいる。設問ⅡのQ2にあったように、「道徳の時間」の資料として最も多く活用される資料は副読本であり、副読本は効果的な資料であるという見方もできる。一方、道徳に関する自由記述の回答には、「多忙なために資料開発が行えない」「時間的ゆとりがなく指導の充実を図れない」との意見が複数見られ、より効果的な資料を活用したいが多忙ゆえに開発や工夫が困難であり、結果副読本を活用しているとの実態もうかがえる。

また、「授業の進め方」「発問の仕方」といった実際的な指導にかかわる情報を望む声も多く聞かれ、「道徳の時間」の基本的指導について理解を深めたいとする教員の多さを物語っている。背景として、「道徳の時間」の指導に関して、教員間の情報交流や授業研究が希薄であることが考えられる。さらに、「他領域との連携を図った指導」や「評価の方法・活用法」に関する情報を望むとの回答も一定の割合に達していることも併せて考えると、道徳について指導力の向上を望んだり悩みを抱えたりする教員の実態が読み取れる。

研究協力校

留萌市立沖見小学校（共同研究担当：鹿島嘉節）

天塩町立天塩中学校（共同研究担当：佐藤隆司）

研究協力員

渡部 心（幌延町立幌延小学校）

山田 洋一（天塩町立天塩小学校）

加藤 晃 老（小平町立鬼鹿中学校）

石垣 友和（留萌市立港南中学校）

留萌管内教育研究所

所 長 小川原紀美雄

主任研究員 嶋本敏幸

研 究 員 安居 和

松岡宏悦

山形 勉

西條直志

宮崎友美

室本 博

永坂健司

